

contact

—
Wakayama Institute for
Social and Economic Development

Magazine

21世紀 WAKAYAMA

VOL.

108

研究成果報告

- #01 地球温暖化による農産物への影響
- #02 自治体非公認キャラクターの研究
- #03 人手不足時代の人材確保策

巻頭言

02 | 和歌山県は歩いてめぐる観光地の宝庫！

名古屋大学 大学院 経済学研究科 教授
齊藤 誠

寄稿

04 | 1 関西電力グループの社会貢献の
取組みについて

関西電力株式会社 理事 和歌山支社長
酒徳 俊夫

09 | 2 紀陽銀行地方創生部の活動について

株式会社紀陽銀行 理事 地方創生部 部長
阿田木 淳

13 | 3 NHK和歌山放送局の取組みについて

日本放送協会 和歌山放送局 局長
矢倉 亜希子

18 | 4 交流とは出会い、出会いは人生の分岐点

あがらの和歌山 紀州文化の会 会長
大江 寛

研究成果報告

22 | 1 地球温暖化による農産物への影響

(一財)和歌山社会経済研究所 研究部長
仮谷 善朗

27 | 2 自治体非公認キャラクターの研究

前(一財)和歌山社会経済研究所 研究部長
下村 修

33 | 3 人手不足時代の人材確保策

(一財)和歌山社会経済研究所 主任研究員
藤本 迪也

経済指標

37 | 和歌山県内企業の業績状況[2023年度]

(一財)和歌山社会経済研究所 主任研究員
藤本 迪也

40 | グラフで見る和歌山県経済指標

44 | 和歌山ブラぶらウォッチング^④

45 | 研究所だより

46 | 編集後記

熊野古道・大雲取越えの歌人たち——

奥の中でずぶ濡れを嘆いた藤原定家と土屋文明、斎藤茂吉

巻頭言

和歌山県は 歩いてめぐる観光地の宝庫！

名古屋大学 大学院 経済学研究科 教授

齊藤 誠



私は、旅行や登山が大好きである。移動の原則という少し大げさであるが、公共交通機関の利用と歩行の励行を基本ルールとして自分に課している。マイカー、タクシー、観光バスを使う移動に比べれば、はるかに時間がかかるし、歩かなければならない分、体力も必要となる。

だから、私と一緒に旅行をすると、同行者は災難である。この8月も、妻とスエーデンを旅行したが、妻の万歩計は、毎日、2万歩超を数えた。夕方になると、くたくたになった妻とは喧嘩ばかりだった。それが、楽しい旅の思い出ともなった。

公共交通機関を使えば、地元の人たちと同じ視線で周囲を見渡すことになる。訪れた場所を歩いて回れば、行き交う人たちと触れ合う機会もできる。土地勘が働かないところを歩くと、かならずとっていいほど、迷子になる。そして、地元の人に道を尋ねる楽しみにつながる。そうしたもろもろのことを含めて、旅情なのではないだろうか。

和歌山県には、私の旅のスタイルにぴったりの観光地が多い。この7月も、和歌山大学で講演があったのを機会に、いくつかの観光地を訪れた。

講演翌日、南海線で加太まで行き、そこから船で友ヶ島に渡った。島には、ハイキング

コースが整備され、明治政府が築造した5つの西洋砲台をめぐることができる。暑さの中、歩くのはなかなか難儀であったが、砲台跡の印象的な姿は、そこまで歩いてきた苦労を忘れさせるものがあった。

午後は、JR和歌山線に乗って橋本まで移動し、そこから南海高野線に乗り換えて九度山で民宿をとった。九度山は、真田親子が流された地でもある。翌朝、日が昇る前から、7つある高野参詣道の1つである町石道^{ちやういしみち}を歩いた。途中、寄り道をしながら、7時間ほどの道のりであった。参詣道の終点にあたる大門を仰いだときは、なかなかの感動であった。

多くの人たちは、参詣道や巡礼路と聞くと、登山道のような険しさを思い浮かべるかもしれない。しかし、古代より、貴族から庶民まで数多くの人たちが救いを求めて踏み固めた巡礼の道は、実のところ、歩く人にとってもやさしい。

町石道も、実際に歩いてみると分かるが、徐々に高度を上げて、いつの間にか（といっても、健脚でも6時間はかかるが…）、大門にたどりつく。町石道は、空海が最初にたどった道といわれている。山を開くためにやってきた空海を案内した地元の人々は、難儀でない道中をと、大師を気遣ったのであろう。

熊野三社への巡礼路である熊野古道も、吉

野から熊野へ延びる大峰奥駈道おくがけみち（まさに険しい修験道）を除けば、旅人にやさしい道である。山頂に向かって垂直方向に高度を稼ごうとする登山道と、聖地に向かって水平方向に（とても長い）距離を稼ごうとする巡礼路は、同じ道でも別物と考えてよいであろう。

高野山から本宮大社への熊野古道は小辺路こへちと呼ばれている。一昨年末、小辺路の中間地点にあたる奈良県側の十津川から熊野古道を歩いた。途中、果無山脈はてなしの集落を通り過ぎるところは、あたかも天空の道を歩んでいる感慨があった。大社の大鳥居を見渡せる丘に立つと、さらなる感動があった。大社から1時間ほど歩くと、湯の峰温泉で旅の疲れをいやすこともできた。

『和歌山社会経済研究所報』の巻頭にこうして文章を書いてきたが、これまでの記述は自分のことばかりで、和歌山のためにまったくなっていない。そこで深く反省して（?）、これからは少しでも和歌山のために筆をふるってみたい。

私のような旅人が高野山や熊野三社へいたる巡礼路を思う存分に楽しむことができるのも、地元の人々や自治体のおかげである。高野参詣道や熊野古道は、2004年に世界遺産に登録された。当然ながら、世界遺産に指定されたから、これらの巡礼路が整備されたのではない。地元の人々が長い歲月、守り続けた巡礼路だからこそ、世界遺産にふさわしいと指定されたわけである。

日本全国に古道や街道と呼ばれる数多くの古い道跡が残っているが、その多くは、時々風雨にさらされ、朽ちるにまかされている。それが、平安時代から人々が踏み固めた道を、現代に生きる私たちが安全に歩むことができるのであるから、奇跡のようなことなのかもしれない。

私が歩いたのが真夏や年末であったこともあって、あまり人に出会わなかった。しかし、春や秋には、田辺から本宮大社に向かう中辺路を中心として、中高年の巡礼者でにぎわう。

スペイン巡礼を兼ねた海外からの若者も歩いているそうである。

多くの日本人にとっては、高野山や熊野三社は、歳をとってから行く観光地だと思われるのかもしれない。50歳、60歳を過ぎて訪ねるとなれば、歩くのは躊躇され、マイカーか、観光バスの利用となるであろう。しかし、それでは、巡礼路を楽しむ醍醐味が失われてしまう。とても残念である。

私が、「和歌山のために」、声を大にしたいことは、「若い人たちにこそ巡礼路を楽しんでほしい」というお節介である。

若い健脚であれば、旅人にやさしい巡礼路は、険しい登山道よりも楽であろう。おまけに履き慣れた靴と使い慣れたリュックがあればよいから安上がりである。地元の宿の人たちは、自らの脚で歩いてきた老若男女を実にやさしく迎えてくれる。

もちろん、いくら旅人にやさしい道とはいえ、巡礼路を歩くとなれば、事前の準備（巡礼路の下調べ、熊鈴を含めて装備や天候のチェック、体調管理など）が大変である。でも旅支度も旅の楽しみであろう。ただ、歩いていると不測の事態に出会うかもしれない、並行して走る公共交通機関を調べておく必要がある。万が一の場合、車道と接するところではタクシーを呼ぶことを考えてもよい。

こうして書いてきて『研究所報』の関係者の方々にも許してもらえるのかもしれない。私としても安心して筆を置くことができる。



本宮大社の大鳥居

寄稿 その1

関西電力グループの社会貢献の 取り組みについて

関西電力株式会社 理事
和歌山支社長

酒徳 俊夫



1. はじめに

「power with heart」。この言葉は関西電力グループのブランドステートメントです。当社のCM等でこの言葉を耳にしたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。先日、当社の社員が業務で訪れた小学校の児童のみなさんに「関西電力という会社を知っているかな？」と質問したところ、「知ってる！power with heartの会社！」という答えが返ってきたそうです。その話を聞き、「power with heart」という言葉がそれだけ認知されていることを嬉しく思うとともに、言葉だけでなく、そこに込めた“まごころと熱意を込めたサービスで、お客さまや社会の『力』になりたい”という想いも含めて社会のみなさまにもっと知っていただけるよう、当社の活動を通してその想いをしっかりと体現していきたいと意を新たにしましたところ です。

さて、当社グループは、1951年の発足以来70年以上にわたって電気・ガスのエネルギー事業を中心に事業活動に取り組んできました。さらには、エネルギーの枠を超え、情報通信事業や生活・ビジネスソリューション事業等の新たな領域にも挑戦してきました。また、地域に根ざした企業グループとして、事業活動を通じた社会課題解決に加え、企業市民として、地域社会への貢献・活性化の取り組みも進めてきました。

その中で、今回は、地域社会のみなさまにこれらの活動の一端である、当社グループの社会貢献活動の取り組みをご紹介します。

【ブランドステートメント】

power with heart

(デザインに込めた意味)

力強く躍動感のある斜体、やわらかい印象を与える小文字と温かみを感じるウォームグレーの色味で、「power with heart」の言葉が持つ力強さとやさしさを表現。「新風」をモチー

フにしたオレンジの曲線デザインを加えることで、新しい時代においても変革し続けるというグループ従業員の熱意も込めています。

2. 関西電力グループ社会貢献活動方針

○社会貢献活動方針の制定

当社グループはこれまで、地域や生活に密着した事業者として、様々なステークホルダーと

連携しながら、地域経済や地域コミュニティの活性化に向け社会貢献活動を実施してきました。

今日、人口減少や環境問題をはじめとした社会課題が先鋭化、鮮明化する中、企業市民としての活動も含めた社会貢献活動をこれまで以上に積極的に展開していくため、2024年6月、「関西電力グループ社会貢献活動方針」を制定しました。

◆関西電力グループ社会貢献活動方針

地域や社会の『力』になりたい

関西電力グループは、「関西電力グループ社会貢献活動方針」を以下のように定め、この基本方針に沿って、事業活動を通じて地域や社会の期待に応えるとともに、良き企業市民として、様々な活動を行っていきます。

- (1) 関西電力グループは、地域や社会の持続的な発展のために、様々なステークホルダーと連携し、地域や社会の課題解決や活性化に積極的に取り組みます。
- (2) 関西電力グループは、地域や社会のみなさまとの対話を大切にし、保有する経営資源を活用した取組みを行います。
- (3) 関西電力グループは、従業員一人ひとりの自発的な活動を尊重し、社会貢献活動への積極的な参加を支援します。

【重点分野】環境保全、地域活性化、次世代層育成

○取組み内容

当社グループは、「関西電力グループ社会貢献活動方針」に掲げた重点分野を中心に、地域や社会の課題解決や活性化に取り組んでいます。

◆環境保全

当社グループのノウハウを活かした清掃活動や、発電所周辺の生態系保全、地域のみなさまと連携した美化活動などに取り組んでいます。

・〈一例〉関西電力グループ環境月間

当社グループでは、6月を「関西電力グループ環境月間」と定め、グループ全体で環境に関する取組みを行っています。「つたえよう 明日へ 未来へ 美しい地球を」をテーマに活動しているこの取組みは、今年で50回目を迎えました。地域の清掃活動や植樹活動、環境教育

等地域のみなさまとともに環境について考える様々な行事を実施し、持続可能な社会構築への貢献を目指しています。

◆地域活性化

地域に根差した伝統文化や芸術、スポーツ支援をはじめ、地域への貢献・活性化の取組みを地域のみなさまとともに進めています。

・〈一例〉かんでんコラボ・アート
(社会福祉支援)

障がいのある方々にアートの創造を通じて自己を表現する喜びを感じていただき、また作品をご覧いただく方々にその魅力や作者の可能性を感じていただくことを目的に、2001年から「かんでんコラボ・アート」を毎年開催しています。受賞作品などは展示会やホー

ムページを通じて紹介しています。

◆次世代層育成

エネルギーミックスやゼロカーボンの重要性について様々な方々に共に考えてもらう機会を創出するため、説明会や小・中学生への授業などを実施しています。

・〈一例〉エネルギー教室

関西電力株式会社では未来を担う子どもたちにエネルギーを身近に感じてもらい、その大切さを伝えることがとても重要だと考え、1997年から当社従業員が地元の小・中学校などに伺って授業を行う「エネルギー教室」を実施しています。この「エネルギー教室」では、発電や送電の仕組みのほか、電気の使われ方や省エネの大切さ、地球温暖化問題などについて、楽しく、わかりやすく学んでもらえるよう工夫を凝らし、ご説明しています。

3. 和歌山エリアの取り組み

和歌山エリアにおいては、地域統括機関である関西電力（株）和歌山支社のほか、関西電力（株）ソリューション本部、再生可能エネルギー事業本部（田辺水力センター）、火力事業本部（御坊発電所）、関西電力送配電（株）和歌山本部などが事業活動を展開しており、それぞれが重要な役割を担っています。各々の活動はもちろんのこと、時には部門や会社の垣根を越え、関西電力グループとして地域の課題解決や活性化に向けて取り組んでいます。ここでは、和歌山エリアにおける社会貢献の主な取り組みをご紹介します。

◆環境保全

・清掃活動

「関西電力グループ環境月間」や「地域感謝月間」に合わせて各事業所周辺の清掃活動に取り組んでいます。また、自治体主催の「おもてなし大清掃」や「スポGOMI大会」等に参加し、地域のみなさまとともに地域の美化活動に取り組んでいます。



▲清掃風景



▲清掃活動時の集合写真

・地元の園児たちとサツマイモ植え （関西電力（株）御坊発電所）

近隣の幼稚園の子供たちを発電所構内に招待し、発電所員と一緒にサツマイモの苗植えを実施しています。この取り組みは1999年から実施しており、参加する近隣の幼稚園では6月の恒例行事となっているため、毎年子供たちが楽しみにしています。秋の収穫祭では、採れたサツマイモを幼稚園に持ち帰り、子供たちが自ら植えたサツマイモを味わいます。苗植えや収穫を体験してもらうことで、地域の子どもたちに環境について考えてもらう良い機会となっています。

◆地域活性化

・文化財等の電気設備点検

（関西電力送配電（株）和歌山本部）

地域の寺社等の文化財や公民館等の災害避難指定場所の防火に繋げるため、電気設備点検を行っています。漏電や電気配線の異常について調査し、お客さまの設備に合わせた電



▲御坊発電所構内でのサツマイモ植えの様子



気の安全な使い方をお知らせしています。橋本配電営業所では7月、高野山総本山金剛峯寺で電気設備診断を実施し、重要文化財に指定された大主殿などで漏電がないかの測定を行いました。今後もしっかりと電気設備点検を行い、地域の貴重な文化財や建物等を電気のトラブルから守っていきます。



▲大主殿での電気設備点検の様子

・地域イベントへの参加

関西電力グループでは、地域の発展や活性化の一助として、地域に根ざした伝統文化や地域行事に様々な形で協力しています。

和歌山エリアでは8月、和歌山市の夏の風物詩である「第56回紀州おどりぶんだら節」に運営ボランティアとして参加しました。当日は、関西電力（株）和歌山支社や関西電力送配電（株）和歌山本部の社員らが集まり、夜の和歌山城を彩る「竹燈夜」の竹灯籠の設置やキャンドルの点灯作業を行いました。灯った竹灯籠は、ぶんだら節に訪れた人々に幻想

的な空間を演出するとともに、祭りの雰囲気を盛り上げてくれました。



▲竹灯籠設置作業の様子

キャンドル点灯作業の様子



また、関西電力（株）和歌山支社は11月、「青少年のための科学の祭典ーおもしろ科学まつりー和歌山大会」に出展しました。2000年から開催されている「おもしろ科学まつり」は、地域の学校や行政機関、企業、有志団体等が協働して開催している和歌山地区最大級の科学や技術に関する教育イベントです。当社が保有する

実験道具による発電体験等を通して、訪れた人たちに科学の面白さや楽しさを伝えました。

当社グループは、様々な地域イベントへの参加を通して、地域の活性化に貢献しています。



▲イベントでの発電体験の様子

◆次世代層育成

・エネルギー出前教室

(関西電力(株)和歌山支社)

和歌山県内全域の小・中学校でエネルギー教室を実施しています。昨年度は、小学生・中学生合わせて1080名の生徒さまに対して授業を実施しました。子供たちからは、「とても楽しかった」「また授業を受けたい」「電気のお勉強が好きになった」という感想が寄せられ、教職員のみなさまからもご好評をいただいております。

また、2023年度からは、三井住友信託銀行株式会社和歌山支店様と共同で小学校向けSDGs出前授業を実施しています。「未来を担う子どもたちに脱炭素社会の実現について

知ってもらい、考えるきっかけにしてもらいたい」という両社共通の思いのもと、三井住友信託銀行様からは、銀行へのお年玉貯金が太陽光発電や風力発電の設備投資に繋がることを伝える授業を、当社からは、地球温暖化実験装置をはじめとする様々な実験道具を活用しながら地球環境問題やエネルギーの大切さについて伝える授業を実施しています。この小学校向けSDGs出前授業の取組みは、和歌山市SDGs推進事業実行委員会主催の「令和5年度和歌山市ベストSDGsアクション」において、奨励賞を受賞しました。

4. さいごに

関西電力グループはこれまで、地域に根ざした企業グループとして「お客さまや社会の『力』になりたい」という想いのもと、地域社会への貢献や活性化の取組みを進めてまいりました。

そして、これからの時代。世の中や当社を取り巻く環境がどれだけ変化しようとも、その“想い”が変わることはありません。

これからも地域のみなさまの声にしっかりと耳を傾けながら、地域や社会の課題解決や活性化により一層積極的に取組んでいきます。また、地域の一員として、地域のみなさまとともに持続可能な社会の構築に貢献していきます。

「power with heart」の想いを体現し、地域のみなさまにお届けできるように、当社グループ一体となって取組んでまいります。



▲エネルギー教室の授業の様子

寄稿 その2

紀陽銀行地方創生部の活動について

株式会社紀陽銀行 理事
地方創生部 部長

阿田木 淳



1. 新たな地方創生部のスタート

紀陽銀行地方創生部は、2024年4月より従来の「室」から「部」へと昇格、また人員の増強も行い、さらなる地域活性化および地域課題の解決に向けて、新たな体制でのスタートを切りました。

新体制では、今まで以上に地方公共団体（以下、地公体）等との取引および連携強化を通じた地域活性化への取り組みを重点活動として掲げ、展開しています。

地域金融機関にとっての地域活性化とは明確なゴールがなく、それに対する想いや捉え方は人それぞれであります。私たちが取り組む地域活性化は、持続可能なモデルでなければならないと考えています。

現在、様々な活動を展開していますが、の中で今回新たに企業版ふるさと納税を活用したマッチング支援事業を開始しました。この取り組みは当行の営業担当者が主に大阪エリアの企業に対して和歌山県内の各地公体の魅力や取組内容を紹介し、賛同・共感して頂いた企業を各地公体へお繋ぎし、ひいては寄附等に繋げる活動であります。

この取り組みにより、各地公体のさらなる歳入の拡充を図ることができ、持続可能な地域活性化に寄与できるものと考えます。また、企業にとっても意義ある地域貢献の役割を果たすとともに、地域への新たな事業展開も期待ができるものと考えます。

これは私たちが展開する様々な取り組みの一例に過ぎませんが、この活動を地道に続けていくことこそが持続可能な地域活性化に繋がるものと考えて、愚直に活動していきたいと考えています。

2. 具体的な取組事例

具体的な取組事例についていくつかご紹介します。

(1) 南紀白浜エアポートとの連携

南紀白浜エアポートは、観光庁認定の観光地域づくり法人「紀伊半島地域連携DMO」として登録されており、この連携により地域全体の観光資源を活用し、観光客の誘致を図っています。具体的には、地域の観光資源を一体的にプロモーションし、旅行会社として誘客した旅行者の旅行体験価値の最大化を図ることで「地域の発展」と「空港利用者の増加」を目指しております。この観光プロモーションのノウハウを学ぶため2022年4月に当部より出向者を派遣し、今年4月に帰任しました。



南紀白浜空港

南紀白浜エアポートでは、白浜町全体で「おもてなし顔認証」実証事業を行っています。これは、顔認証技術を活用して旅行者の利便性を向上させる取り組みです。旅行者は顔認証を通じてスムーズなチェックインや施設利用が可能となり、ストレスフリーな旅行体験を可能にします。この技術を活用することで、旅行者の満足度を高め、リピーターを増やすことで地域経済の活性化と空港利用客の増加



南紀白浜空港
顔認証決済端末



南紀白浜空港 おもてなし
ウェルカムサイネージ

によるマネタイズを図ります。また、この先進的な取り組みを視察するために、多くの企業や自治体が全国から訪れ、地域の注目度も高まっています。

また、南紀白浜は「ワーケーションの聖地」として知られており、4つのサテライトオフィスが整備されています。訪れるビジネス客は、美しい自然の中で仕事と休暇を両立できる環境の中で業務を行うことで生産性が向上します。企業へこのワーケーション体験を積極的に推進することで将来的な企業誘致や従業員の移住・定住のきっかけ作りとしています。



白浜IT第1オフィス2階窓より撮影



NECソリューションイノベータ 白浜オフィス



NECソリューションイノベータ 白浜リビングラボ

当部からの出向者においても、このような観光振興とマネタイズのノウハウを吸収・実践、また在任中に旅行業取扱管理者の資格を取得する等、企業ニーズに沿った旅行プログラムの企画立案・プログラム造成・アテンド等を行い、観光者目線に立った新たな地域資源の発掘やブランディングの実務を経験できました。今後はその経験を活かした地域の磨き上げおよび観光振興に少しでも貢献できる活動を展開していきたいと考えます。

(2) 和歌山工業高等専門学校との 地域産業勉強会

紀陽銀行と和歌山工業高等専門学校（以下、和高専）は、地域産業の発展と学生の地元就職を促進するために、2008年から毎年「地域産業勉強会」を共催しています。この勉強会は、学生が地元企業を知り、将来地元での就職の機会を得るための恒例イベントです。紀陽銀行と和高専は、地域産業の発展と学生のキャリア支援を目的とした連携協定を結んでおり、この協定に基づき、地域産業勉強会が開催されています。勉強会は毎年秋から冬にかけて開催され、地元企業が多数出展します。学生は企業ブースを訪問し、企業の実情や求める人材像を深く理解することができます。例えば、2024年の勉強会は10月26日に開催予定で、61社の企業が参加予定です。この勉強会の主な目的は、これから就職活動を始める学生のキャリア教育の一環として、地元企業を紹介し理解を深めていただくことにあり、これまでの勉強会を通じて、多くの学生が地元企業に就職し、地域経済の活性化に寄与しています。このような産学連携の取り組みは、学生と企業の双方にとって非常に有益であり、地域全体の活性化に繋がっています。今後もこの勉強会を継続し、さらに多くの学生と企業とを繋ぐ橋渡し役を当行は担いたいと考えています。



銀行をこえる銀行へ

News Release

2023年12月5日

各位

株式会社 紀陽銀行

和歌山工業高等専門学校との「地域産業勉強会」の開催について

株式会社紀陽銀行（頭取：原口 裕之）は、独立行政法人 国立高等専門学校機構 和歌山工業高等専門学校（校長：井上 示恵、以下同校）と共催で「地域産業勉強会」を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

本勉強会は、学生の皆さまに地元企業を知っていただく機会を提供するため、同校との「連携協力に関する協定」に基づき、2008年より毎年実施しています。出展いただいた企業さまに関心を持った学生が、本勉強会をきっかけとしてその企業に就職するなど、大変有意義な会として定着しています。

紀陽銀行は、今後も関係機関と連携しながら地元企業の雇用確保や学生の地元就職の促進を図り、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

【開催概要】

期 間	2023年12月9日（土）12：30～14：30
会 場	御坊市立体育館（御坊市園7番地）
内 容	各企業が出展ブースを設け、学生が個別訪問をおこなう
出展企業数	54社（当行取引先企業）

以上

本取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール8「働きがいも経済成長も」、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる取り組みです。



(3) 和歌山県・堺市との地域DXの取り組み

当行は、地域DXの推進として地公体と連携した取り組みを実践しています。

まず、和歌山県とは「わかやまデジタル革命推進プロジェクト」の一環として、2021年度に「デジタル経営診断環境構築業務」を当行は受託し、取引先168社に試験診断を実施しました。2022年度～2024年度も和歌山県より「デジタル経営診断実施・分析業務」を当行が受託し、各年度1,000社を超える取引先への診断を実施しました（2024年度も実施中）。診断を受けた事業者からは、「デジタル化の必要を感じた」「定期的に診断したい」「社内で共有したい」というデジタル化への意識が高まったというコメントが多くあり、デジタル化取り組み意識の醸成や現状把握に「デジタル経営診断」が一定の効果があつたことを確認できました。また、堺市とは2023年度に堺市内企業向けに「堺DX診断」も実施しました（2024年度も実施中）。

今後もデジタル経営診断を起点に地域のステークホルダー（地公体や関連団体等）と共創して、地域DXの支援を行ってまいります。



3. 今後について

私たち地方銀行の最大の使命・ミッションは地域活性化であります。地域が活性化しないと明日の地方銀行はないと言っても過言ではないです。地域活性化の為に今後も惜しみない努力と支援をしていきたいと考えます。

また、2025年に当行は創業130年という節目の年を迎えます。「地域社会の繁栄に貢献し、地域とともに歩む」という経営理念のもと、地域の皆さまの期待と信頼に応え、「感謝」と「地域とともに」歩み続ける想いを持って取り組んでいきます。

P13～17 は

執筆者意向により非掲載

寄稿 その4

交流とは出会い、 出会いは人生の分岐点

あがらの和歌山
紀州文化の会 会長

大江 寛

私は和歌山が好きだ。和歌山で生まれ、和歌山に育ち、たくさんの人達にお会いしました。「どこが好きか？」と聞かれると「すべて」とありきたりの答えしか返せませんが、あがらの和歌山の書籍を出版するようになり、深く知れば知るほど良いところだけではなく、悪いところも含めてますます和歌山が好きになり、いろんなことをたくさんの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

さて、紀州文化の会をご案内できる機会をいただき光栄です。紀州文化の会の発足は和歌山県の紀伊山地の霊場と参詣道が世界遺産に登録された年に友人と話したことがきっかけでした。和歌山には凄い歴史があり、文化があり、凄い人物がいる。そのことを発信しようということになりました。



紀州文化の会が出版した書籍

平成17年、「ふれあい川柳、人生いろいろ」を出版したことからスタートします。この本は紀州和歌山に関わりを持っておられる方々に川柳を詠んでいただくというものでした。川柳にはユーモアがあり、風刺があり、人情があり、また人に幸せをあげることができる、まさにドラマです。この本は、書いていただいた方にも、また手に取って読んでいただいた方にも喜んで頂けて、このことが私の出版人生の始まりだったのかも知れません。題字は随筆家・梅田恵以子先生、イラストは落語家・桂文福師匠に書いていただきました。そして翌年には「ふれあい川柳、人生いろいろ 第二集」を出版。こ

れを機に組織の名前を「紀州文化の会」と改めました。

この頃から「もっともっと和歌山を」の思いが強くなり、次に手掛けたのが歴史でした。「あがらの和歌山・歴史てほんまにおもしろいでえ」。あがらは和歌山弁で私たちの意味。私たちの和歌山を知っていただいて、ええとこもあかんとこも含めてファンになって欲しい。そんな思いを込めて作りました。和歌山には凄い歴史と文化、そして人がいる。歴史の節目節目で活躍した人がいる。これをまとめて年表の本にしたらどうなんやろ？この思いを仲間たちに話すと賛同し応援してくれました。勝海舟がいて坂本龍馬がいて、今年生誕180年という陸奥宗光がいて、彼らと同じ空気を吸って活躍した紀州の男たちがいた。歴史てほんまにおもしろいでえ。そんな本が出来上がりました。



あがらの和歌山シリーズ第1弾
「歴史てほんまにおもしろいでえ」と
最新版「気になる和歌山 今昔物語第二集」

歴史の次は「人」。人間に着目したのが「あがらの和歌山・人間てほんまにおもしろいでえ」。和歌山のために頑張っている人にスポットライトを当て、そしてその人から熱いメッセージをいただきたいと言う思いからこの本が完成しました。

私は和歌山が大好きですが和歌山の人も大好きです。これだけたくさん本を出版できたのも支えてくれる人があったから、一緒に泣いて笑ってくれる人がいたからです。私は出版記念パーティーでよく泣きます。涙を見せまいと

思っているのですが、人の温かさに触れると弱くなってしまいます。どれだけたくさんの人に支えられたかと思うと感無量になってしまうのです。人と人の出会いは交流から。そう思う私は人と人の出会いがどれだけ素晴らしい化学反応を起こして、素晴らしいものが生まれるかということを目の当たりにしてきました。そこから立ち上げたのが毎月第二金曜日の夜にみんなが集う異業種異年齢の交流会「にきん会」です。もちろんコロナにも負けず現在も継続しています。そこでも素晴らしい出会いがあり、それぞれに楽しい出会いをしてもらっているのが喜びでもあります。この「にきん会」には愛好会もあり、ゴルフ、着物、ワイン、ボウリングなど、それぞれの趣味で集まった人たちも楽しく輝いています。人は人を輝かせるのだと、この「にきん会」で教えてもらいました。クリスマスパーティー、お誕生日、会員の頑張りをみんなで応援する、忘れていた当たり前のことを思い出させてもらいました。たくさんの出会いに感謝します。

平成21年には「あがらの和歌山・365日」が出来上がります。1年365日、その日その日の出来事を「今日は何の日？」的にまとめ上げたものです。そして翌年はあがらの和歌山・古写真集おっちゃんのお宝もの。和歌山放送でナツメロ番組を持っていた山本のおっちゃんが大切にしている写真を一冊の本にしたものが完成しました。貴重な写真の数々、機会があれば是非ご覧になって頂きたいと思います。

紀州文化の会が発足して8年目、「あがらの和歌山・地名てほんまにおもしろいでえ」を出版。私は龍神村に生まれ育ちました。もしもう一度生まれ変わったとしてもやはり龍神村に生まれるたいといつもそう思っています。ふるさとの温もりというのは年を重ねる毎により深く感じるように思います。と同時にその地名の由来は何なんだろうと、ふと思うことも誰しもあったのではないかと思います。この本は和歌山市の地名の成り立ちの研究ですが、調べてみると実に面白い。「地形に由来する地名」や「城下

町に由来する地名」「信仰から生まれた地名」「職業に由来する地名」「人の名前に由来する地名」等、ロマンを感じさせてくれるものばかりです。私自身たくさんの発見があった本です。そして県民の皆さんに知って頂きたい情報が詰まった「県民手帳・あがらの和歌山」。その次は和歌山弁に焦点を当てた「あがらの和歌山・方言てほんまにおもしろいでえ」。大切な友人でサイコーに楽しい和歌山弁を喋る方がいました。今も違う遠い世界で和歌山弁をみんなに広めているに違いないと思っています。和歌山弁と一口に言いましても、和歌山市、田辺市、新宮市と全然違うんです。調べていくと本当に面白いです。地域別に方言面白ランキングで紹介したり、和歌山弁の歌詞やコラム、マエオカテツヤさんのイラストも大変ほのぼのと、見やすい一冊となっています。

がむしゃらに和歌山のいいところを皆さんに知ってもらいたいと走り続けて10年、なんと素敵なお褒美に「平成25年度和歌山県知事表彰」をいただくことができました。そういう賞というものが目的だったわけではありませんが、やはり認めていただいたようで、やってきたことが間違っていなかったと評価をいただいたようで、とても嬉しかったことを覚えています。



平成25年度和歌山県知事表彰を受賞

しかしこれで終わりではありません。書きたいこと、紹介したいこと、後世に伝えたいこと

がまだまだ有ります。そして10冊目は「あがらの和歌山・ええところあらいしょ和歌山」。県外の方から「和歌山はいいところがたくさんあるけど、それを上手く料理できていないね」とよく言われます。この本を作ろうと思ったのは「自分たちのことなんやで、あがらの街の事なんやで」と伝えたかったからなんです。「いい街」とはどんな街なのでしょう？私は「いい人」が住んでいる街、それが本当にいい街だと考えています。その街に暮らす人が自分の街に誇りを持ち県内外の人にも和歌山の魅力を伝えていける、そこを改めて感じていただきたいと思い出版しました。あがらの和歌山は和歌山のファンを増やしていくことが目的ですから、もっともっと県外、海外にも和歌山のファンが増えればいいと思います。

平成27年には「あがらの和歌山・屋号てほんまにおもしろいでえ」を出版。様々な企業やお店の名前に特化して、それぞれの想いも語って頂きました。お店や会社の名前の由来は大変おもしろく、それと同時に頑張っておられる和歌山の企業を紹介できたことも嬉しく思います。続いては「あがらの和歌山・昭和のかほり」。昭和も遠くなりにつれ。私はよく令和に入っても昭和何年といいます。因みに今年（令和6年）は昭和99年です。来年は昭和100年になります。将来や未来のことは誰にもわかりませんが、一つ考えるとすれば過去の出来事から学ぶことが、未来へと繋がる何かひとつの気づきになるかも知れません。また、それぞれ皆様の青春を見つけて頂ければ、そんな思いで作りました。ただ、編集していくと思いのほか悲しいことや辛いことがたくさんあったのも昭和で、本当に激動の時代だった気がします。

人が好きな私はここから5年間は人に焦点を当てて5冊の本を発刊致しました。平成も後半になってきた時、和歌山の女性って凄いパワーを持っていると感じることが多くなりました。そこでまずは紀州の女性を紹介する本を2冊、そして「紀州の侍」と冠した紀州の男性を紹介する本を3冊作ります。この頃には出版記念

パーティーも450人以上が集うようになり、たくさんの方に応援いただけるようになってきました。いろんな人を応援したいと考えた企画でしたが、本当に人の温かさ、和歌山の温かさを知ることにもなりとても嬉しく思いました。

そしてそんな中、新型コロナウイルスが日本にもやってきたのです。和歌山県内で初めて確認されたのは2020年2月13日のことで、コロナは私達のような小さなグループにも大きな影響をもたらしました。人に会えない、会えたとしてもマスク越し、出版記念パーティーも延期が続きました。世の中が変われば自分も変わらなければならないことを痛切に感じました。しかし、矢張り人と会うことの大切さを忘れてはならないと強く思いました。当たり前だったことができない。人と会うことがどれだけ大切なことか、感謝の気持ちを忘れてはならないのだと改めて教えてもらっているのかもしれないとも思いました。



出版記念パーティーの様子

変化していく時代の中、やはり伝えたいことはたくさんあります。コロナよりも前から温めていた「気になる和歌山・今昔物語」の編集に取り掛かりました。今、ここにはこんな建物があるけど50年前はどうだったんだろう？あの場所に有った映画館や喫茶店はどうなったんだろう？調べていくと紹介したいことだらけでした。この本は和歌山市内を6地区に分割し6年かけての挑戦になります。現在、第二集まで出版し三集目の仕上げに掛かっているところです。書店にも並んでおりますし、和歌山市近郊の図書館にもございますのでご覧頂ければ幸い

です。

時代は動いています。携帯電話がこんなに普及するなんて40年前は思ってもいませんでした。そしてキャッシュレス、インスタやYouTubeのSNS関連。ついて行くのも大変ですが、人と人との出会い、交流はいつの時代でもやはり同じなのだと思います。現在21冊目の和歌山に特化した本を編集中ですが、たくさんの人と出会い、支え助けていただきました。一人では決して出来ませんでしたし、賛同し支えてくださったたくさんの方に感謝しています。

「文化は先人からの贈り物」。過去を知ること未来を築くヒントを得る。自分や自分の街を好きになる。そして誇りを持つ。温かい人との交流がまた素晴らしい街を作っていく。いろんなことを教えていただく出版活動でした。そして私の和歌山ファンを増やす活動はまだまだ続きます。様々な時代の中で人が忘れそうなことを、しっかり伝えていけたら嬉しく思います。私はお金持ちにはなれなかったですが、多くの方のお陰で『人持ち』になれた気がします。

ありがとうございました。



研究成果報告 1

地球温暖化による農産物への影響

(一財)和歌山社会経済研究所
研究部長

仮谷 善朗

1 はじめに

近年、地球規模で平均気温が上昇し、気候変動対策の重要性が増している。日本の年平均気温も、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、それに伴い真夏日や猛暑日の年間日数、大雨の年間発生回数が増加傾向となっている。気候変動は、極端な気温や異常な降水をもたらすため、農作物に悪影響を与え、農業生産の不安定化へと繋がっている。

持続可能な農業を実現するためには、地球温暖化の進行を抑制し、適応策を講じることが必要であり、従来の農業手法を見直すとともに、気候変動に対応可能な新たな技術や品種の開発が強く求められている。

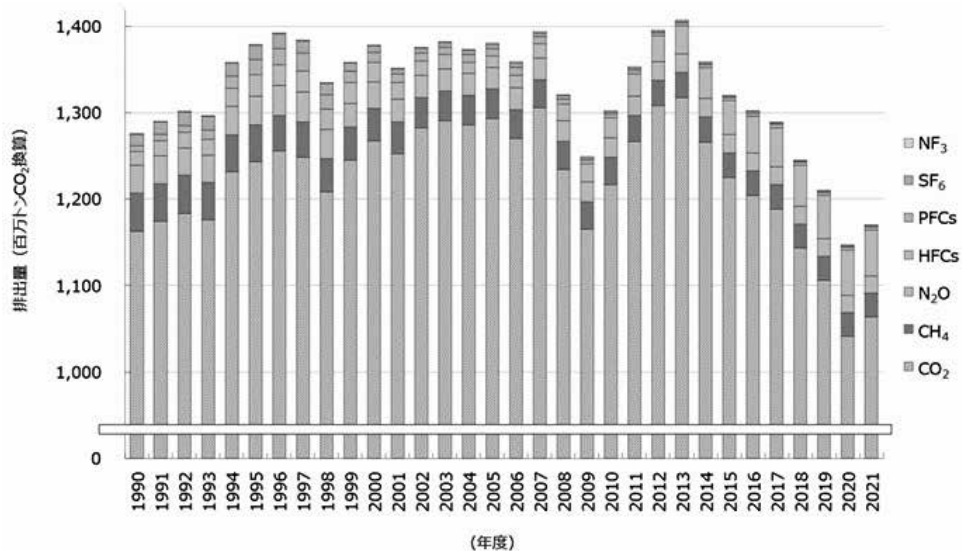
地球温暖化が農作物に及ぼす影響とその対策について整理してみたい。

2 地球温暖化とは

地球温暖化とは、産業活動が活発となった社会において、その活動によって排出された二酸化炭素などを含む温室効果ガスの濃度が大気中に増加したことにより、地球全体の平均気温が急激に上昇し始めている現象のことをいい、近年は減少傾向にあるとはいえ、日本における温室効果ガスの排出も、大半が産業活動に起因しており、とりわけ排出量が最も多い二酸化炭素は、エネルギー需要に左右される面が大きい(図-1)。

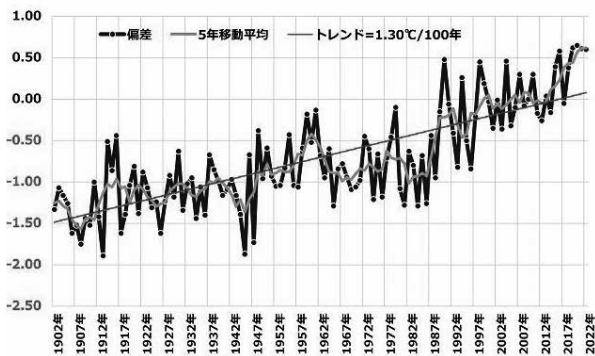
気象庁によると、日本の平均気温は長期的には100年あたりで1.30℃の割合で上昇しており(図-2)、それに伴い全国(13地点)の日最高気温が35℃以上(猛暑日)の日数は増加し、特に最近30年間(1994~2023年)の平均年間日数(約2.9日)は、統計期間の最初の30年間(1910~1939年)の平均年間日数(約0.8日)と比べて約3.8倍に増加している。

(図一) 日本の温室効果ガス排出量

(単位：億トンCO₂換算)

出典：国立研究開発法人 国立環境研究所「地球環境研究センターニュース」(2023年6月号)

(図二) 日本の年平均気温偏差



出典：気象庁HP

3 地球温暖化の影響

地球温暖化は、人間の生活や自然の生態系などに様々な影響を及ぼしている。生態系や生物多様性が大きく変化することは、現在我々が享受している自然の恩恵に大きく影響することとなる。地球温暖化がもたらす主な影響は次のようなものが考えられる。

(1) 気候の変化

地球温暖化により気温が上昇すると、海面からの蒸発量が増加し大気中の水蒸気が多くなる。その結果、海洋上で発生する台風がより大型で強力に発達しやすくなり、それに伴って豪雨などの異常気象が増加し、局地的な集中豪雨による洪水や地滑りなどの自然災害の被害も増大することとなる。

(2) 海面上昇

気温の上昇に伴い、海洋温暖化による膨張熱と南極や北極大陸などの氷の融解などにより、海面の水位が上昇している。2021年のIPCC第6次評価報告書によると、1901年から2018年の期間に世界平均海面水位は20cm上昇しているといわれており、海拔の低いモルディブ、ツバル、バングラデシュなどの国では海面上昇により、国土の一部が失われる可能性があるといわれている。

(3) 生態系の変化

地球の温暖化は、生態系や生物多様性の状況を大きく変化させることになる。気温の上昇や降水量の変化により植物や動物の分布や生息地が変化し、海水温の上昇でサンゴ礁や海洋生物の生存・成長に影響を及ぼすなど、生態系のバランスが崩れ生物多様性の減少や生態系の破壊が懸念される。

(4) 食料の減少

地球温暖化の影響は、緩やかな変化によるものであるが、その変化と被害は程度の差こそあれ、世界的に発生することが予測され、適切な対策が取られなければ世界的な食料危機が生じることも考えられる。食料を海外からの輸入に頼る我が国にとって、世界的な食料生産の減少は極めて影響が大

きく、食料安全保障上も重要な問題である。

(5) 健康被害

気温の上昇は、伝染病を媒介する生物の活動範囲や時期を広げ、感染症の拡大や熱中症、暑熱による死亡リスクをもたらすことも考えられる。また、食料の生産が減少することによる飢餓や栄養不足、大気汚染や異常気象などによる健康被害も懸念される。

4 地球温暖化が農作物に及ぼす影響

温暖化による気温の上昇は、かつて人類が経験したことのない急激な勢いで、その変動幅を大きくしながら上昇することが予測されており、農作物へは短期的には気象変動が、長期的には温暖化による高温が大きな影響を及ぼすと考えられている。長期的にみた温暖化による国内農業への影響は、収量が増加する地域と減少する地域の偏りが極めて大きくなることが示唆されているように、高温による「栽培環境の不適化」や「高温障害」などのマイナスの影響と、これまで栽培できなかった暖地型作物が寒冷地でも栽培できるようになるなどの「栽培環境の好適化」といったプ

ラス要因も考えられる。また、高温だけでなく低温による農業への影響も十分考慮しなければならず、特に春先の寒の戻りによる霜害や、夏季の冷害等の発生増加にも注意が必要である。

農業は気温や降水、日射などの自然条件に依存し、特に気候変動の影響を受けやすい産業である。そのため、様々な変動を繰り返しながら上昇している平均気温や、大雨の発生頻度の増加などといった気候変動は、農作物の品質・収量の低下、栽培適地の変化といった影響を及ぼしている（表—1）。

水稻は、登熟の時期に高温になりやすく、温暖化の影響を受けやすいと言われている。顕著な被害は、登熟期の高温によって玄米に「白未熟粒」や「胴割粒」が増える高温登熟障害であり、等級の低下や精米ロスの増加、食味の低下などが起こりやすくなる。これらには、従来品種に拘らず高温でも食味の優れた優良品種を選定することと併せ、堆肥の投入などによる地力の向上や圃場の水管理などが重要となる。

野菜は、気温が上昇すると葉物は茎が伸び、栄養が茎に奪われて品質が悪化する。キャベ

（表—1）温暖化による主な農作物への影響と対策

作 物		農作物への主な影響	対 策
水 稻		白未熟粒、胴割粒の発生	水管理の徹底 高温に耐性のある品種の導入
果 樹	温州みかん	日焼け果 浮皮	優良品種の選定、成長調整剤の散布、 反射シート、摘果法の改善
	柿	着色遅延 日焼け果・軟果	マルチの敷設、灌水の徹底、 鮮度保持剤の活用
	桃	果肉障害、生理障害 着色不良・着色遅延	果実袋・マルチシートの活用 優良品種の選定
	りんご	着色不良・着色遅延・日焼け果	着色優良品種の導入
	ぶどう	着色不良・着色遅延・日焼け果	環状剥皮処理、白・黄緑色系品種の導入
野 菜	トマト	着色不良、着花・着果不良、裂果、 生育不良	遮光資材の導入、高温耐性品種の導入
	いちご	花芽分化の遅れ、虫害 着色不良・結実不良	クラウン部の冷却、培地の昇温抑制

資料：筆者作成

ツなどはうまく結球しなくなり、大根など根菜は固くなってしまふ。また、果菜類では結実不良が生じやすくなる。これらを防ぐためには水稲と同様に高温に強い品種の選定や地力の向上、適切な水管理が重要である。

果樹は、経済樹齢が長く作期移動が困難なため、一般に気候変動の影響を受けやすい作物といわれている。果樹は夏場の高温期に熟すものが多く、本県の主産品である温州みかんの場合、幼果が夏の暑さで日焼けし、腐って落下する被害が増えるほか、「浮皮」が多発し、食味が低下したり腐りやすくなったりする。りんごやぶどうは、着色不良や着色遅延が見られる。このため、みかん産地では浮皮の発生しにくい品種の育成や植物成長調整剤の活用、摘果法の改善などの取組が行われ、着色不良対策としては、りんごの場合、窒素の施肥量を制限して着色を促す新たな施肥方法の実施が有効といわれており、ぶどうでは環状はく皮処理が有効とされている

下記の図は、地球温暖化による栽培適地の移動マップである（図一3）。図の左側は温州みかん栽培適地であるが、見てわかるように栽培適地は現在から2060年にかけて北上し、内陸部に広がっていくと予想されている。右

側のりんごに至っては、現在から2060年代にかけて中国、四国、中部、東北地方での栽培適地が縮小し、北海道へと移動する可能性があるといわれている。

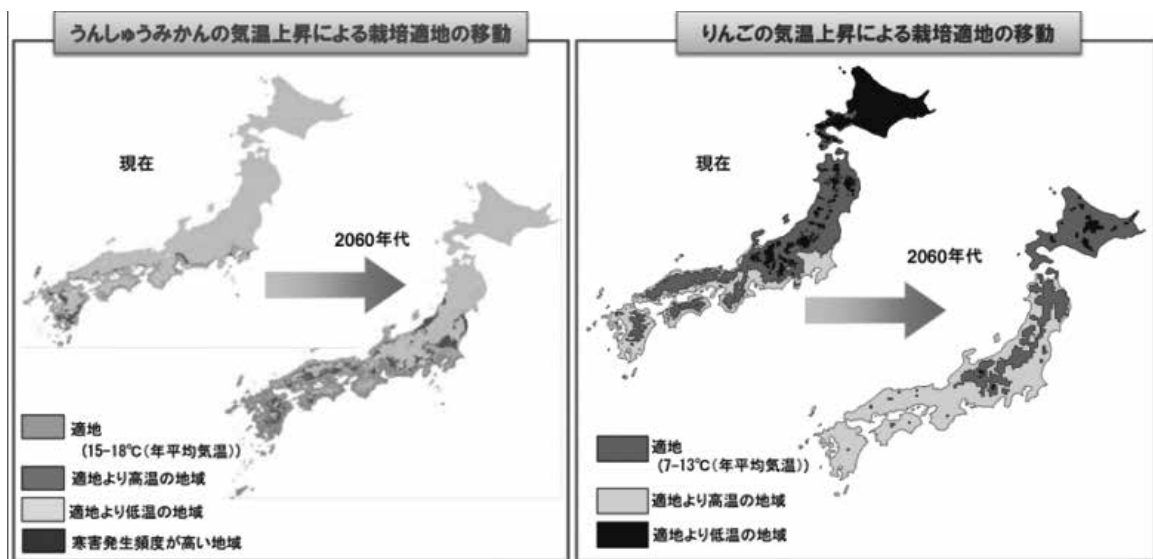
5 地球温暖化対策の取組

地球温暖化対策には、大きく分けて二つある。一つは、その気候変動物質である温室効果ガスの排出量を削減する「緩和策」、もう一つは、すでに起こりつつある、あるいは起こりうる気候変化に対して気候変動の悪影響を軽減する「適応策」である。

(1) 地球温暖化緩和策

「緩和」とは、気温上昇などの移行変動のスピードを和らげるための取組であり、我々がまずなすべきことは、温暖化をもたらす原因に直接働きかける「緩和」を確実に進めることである。しかし、最善の「緩和」の努力を行ったとしても、世界の温室効果ガスの排出を削減するためにはどうしても時間がかかるため、ある程度の温暖化の影響は避けることができないといわれている。したがって、「緩和」と同時に温暖化の影響への対処として「適応」の取組も重要となる。

（図一3）想定される栽培適地の移動



出典：農林水産省 農業環境対策課「農業分野における気候変動・地球温暖化対策について」(2024年1月)

(2) 地球温暖化適応策

「適応」とはすでに起こっている気候変動の影響に対して防止や軽減を行い、その環境に慣れるための取組である。特に、農作物の高温障害対策では、適地適作が非常に重要な取組である。適地適作は、持続可能な農業や食料生産を促進し、地域の気象変化に柔軟に対応する手段として国際的にも注目されており、食料供給の安定性を向上させ、地域環境への負荷を軽減することも可能なのである。

6 まとめ

地球温暖化対策は、温室効果ガスを削減する緩和策を中心とした取組が中心であったが、最大限の緩和をした場合でも温暖化ガスの削減には時間を要することから、地球温暖化対策の取組は気温上昇を軽減する「緩和」と、気候変動による影響に対応する「適応」を対策の両輪として強力に推進していくことが重要である。

特に、地球温暖化の影響を受けやすい農作物は、農業生産において高温等の影響を回避・軽減する適応技術や栽培適地の移動、高温耐性品種等の選定・導入など、生産現場への適応策の普及指導や新たな適応技術の導入等が強く求められており、国をはじめとする試験・研究機関の研究結果や各産地の取組など、情報を共有することが必要である。

今後、あらゆる場面において、温室効果ガス削減に向け「緩和」と「適応」の取組の双方を効果的に組み合わせ、少子高齢化や農家の減少などの社会経済システムの変化への対応とも合わせ、包括的に対策を進めていくことが求められるであろう。

2018年12月に気候変動適応法が施行され、地方公共団体などが主体となり適応に関する施策を推進することが求められている。今後の気候変動の影響に対し、地域が効率的に対策を検討していくためには、これまで培ってきた知識やノウハウをフル活用するとともに、

我が国だけにとどまらず、国際的な協力と政府、企業、個人など社会全体で取り組むことが重要である。

7 参考文献

- 1) 農林水産省「農業分野における気候変動・地球温暖化対策について」(2024年1月)
- 2) 農林水産省「令和3年地球温暖化影響調査レポート」(2022年9月)
- 3) 国立研究開発法人 国立環境研究所「気候変動と適応」(2023年)
- 4) 国立研究開発法人 国立環境研究所「わが国の2021年度の温室効果ガス排出量について」(2023年)
- 5) 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構「地球温暖化の影響と適応策」(NARO No.16 2020年6月30日)
- 6) 脇岡靖明「気候変動への適応を考える」(2021年1月)
- 7) 田中菜採兒「農業分野の気候変動適応策」(2022年8月)



研究成果報告 2

自治体非公認キャラクターの研究

前(一財)和歌山社会経済研究所
研究部長

下村 修

1 自治体非公認キャラクター

「萌えおこし」という言葉がある。立教大学井手口彰典教授は『萌える地域振興：「萌えおこし」の可能性とその課題について』ⁱで、「萌え」とは「特定の対象を好ましく思い感情的に傾倒した状態」として、「萌えおこし」を「萌える感情による地域振興」と定義している。まんがやアニメなどの「美少女キャラクター」（以下、「萌えキャラ」という。）を、観光PRなどに用いているのがよい例である。しかし、完全にオリジナルな「美少女キャラクター」を使い、自発的に地元をPRする多くの人たちがいることをご存じだろうか。しかも運営しているのは自治体ではない一般の民間の人である。本稿では、このキャラクターを「自治体非公認キャラクター」と位置づけ、和歌山県内でも近年活発化してきているこの動きに焦点を当て、背景を考察してみたい。

まずは「萌えおこし」が発展した経緯を概観したい。前述の井手口教授による論文で紹介されている佐賀県大和町（現佐賀市）の「まほろちゃん」という萌えキャラの起源は1997年にまで遡る。「萌えおこし」はその頃から、徐々に蓄積を重ねていった。

「萌えおこし」を大きく発展させたものとして2つの大きなキャラクター群がある。「鉄道むすめ」と「温泉むすめ」である。

「鉄道むすめ」とは、株式会社トミーテックが2005年から制作・展開している全国各地の実在する鉄道事業者で活躍する様々な職種のキャラクターで、フィギュアなどのキャラクター商品を販売しているものである。ⁱⁱ

「温泉むすめ」とは、株式会社エンバウンドが2016年に発表した「日本全国の温泉地や地方都市の魅力を国内外に発信するために作られた『地域活性化プロジェクト』」であり、温泉を擬人化したキャラクター（神様という設定）を制作しグッズ販売やイベントなどを展開している。ⁱⁱⁱ

【図表1 萌えキャラ運用年表】

年	出来事
1997	佐賀県大和町（現佐賀市）「まほろちゃん」誕生
1998	
2004	
2005	「鉄道むすめ」発足
2006	
2007	
2008	日本版ツイッターサービス開始
2009	
2010	
2011	
2012	
2013	
2014	「自称萌えキャラ学会」設立
2015	
2016	「温泉むすめ」発足

「鉄道むすめ」や「温泉むすめ」のファンは、キャラクターたちに会うため全国を飛び回っている。この2つのキャラクター群は「萌えキャラ」を求めて全国を旅行するという新たな観光モデルを生み出したと言える。

「萌えおこし」は次第に個人や企業が独自に行うようになっていく。このような活動が活性化してきた要因として、2008年に始まった日本版ツイッター（現「X」、以下旧称の「ツイッター」を使用。）のサービスが挙げられるだろう。ツイッターは個人の情報発信を容易にし、個人が萌えキャラを運営し始める契機となったと考えられる。（図表1）

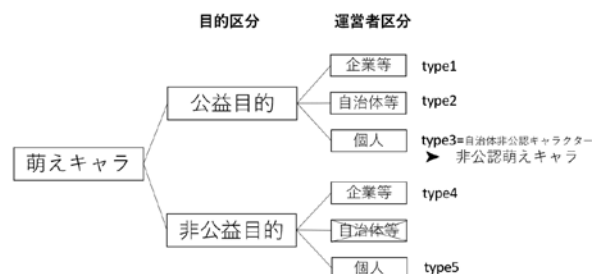
2014年に「自称萌えキャラ学会」¹⁴が設立され、ホームページ上には103のキャラクターが登録されている。これら萌えキャラのツイッターアカウントの開設年は2009年頃から始まり、初期は企業によるツイッター開設が多く、2011年頃から個人によるツイッター開設が始まっている。

2 萌えキャラの概要

それでは、全国にいったいどのくらいの萌えキャラが活動中なのだろうか。全ての萌えキャラを捕捉するのは難しく参考値という前提であるが、ツイッターを用い、できるだけ多くの活動中の萌えキャラのアカウントをフォローすることで収集を試みた。収集したアカウントを分類したのが（図表2）である。活動目

的に「地域振興」などの公益目的を含むか否かという2種類に分類し、更に、運営主体が企業等、自治体等、個人の3種類に分類した。自治体が非公益目的で行うことはあり得ないので、5つのタイプに分類されることになる。

【図表2 萌えキャラ分類図】



本稿で注目している「自治体非公認キャラクター」はtype3の「公益目的」＋「個人」アカウントである。このキャラクター群を、以下本稿では「非公認萌えキャラ」と呼ぶ。

今回、総計223のアカウントを収集した（図表3）。公益目的アカウントは170に上った。公益目的アカウントでは個人が圧倒的に多く、次いで企業等、自治体等の順となった。都道府県別に見たところ、ほぼ全ての都道府県に萌えキャラアカウントが存在していた。

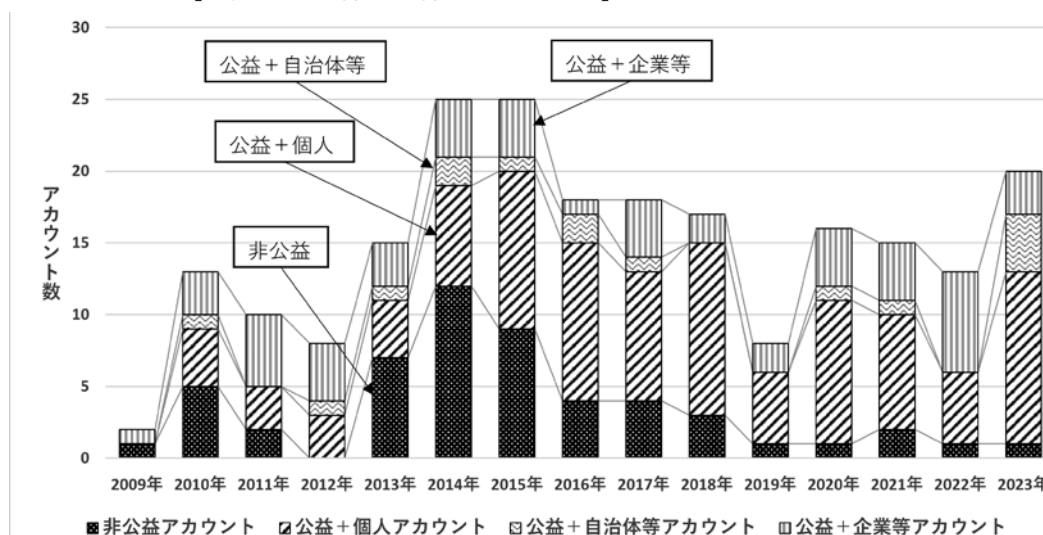
【図表3 萌えキャラアカウント集計結果】

（2024年3月5日集計）

目的区分	運営者区分	アカウント数	うちV	
			チューバー	みキャラ
公益目的	企業等	51	0	2
	自治体等	15	4	1
	個人	104	29	5
	小計	170	33	8
非公益目的	企業等	49	1	0
	個人	4	1	0
	小計	53	2	0
計		223	35	8

これを、アカウント開設年別で比較してみたのが（図表4）である。現時点で継続しているアカウントのみを観察していることに留意する必要があるが、概ねの傾向は知ること

【図表4 年別分類別アカウント数】 (2024年3月5日集計)



ができる。全体的な傾向として2014年、2015年あたりに萌えキャラ誕生のピークが来ている。企業などが自社のPRのために萌えキャラを活用する「非公益目的」が2014年頃に最も多く、その後下火となっていくためである。非公益アカウントの減少に対し、個人が公益目的で開設するアカウントはコンスタントに開設され続けている。企業系アカウントは企業PRと地域活性化を兼ねて萌えキャラを活用するものが主流になってきている。

3 和歌山県内で活躍中の萌えキャラたち

ツイッター上で確認できた和歌山県内の萌えキャラたちを概観してみよう。確認できたのは、自治体等によるもの2件、企業等によるもの8件、個人によるもの8件の計18件であった。Vチューバーや着ぐるみキャラ、ゆるキャラに近いものもある。また、最も古いもので2013年開設であった。(2024年3月5日時点調査)

中でも「非公認萌えキャラ」としては、紀美野町の「きみのほしぞら」、上富田町の「一八桃葉」、印南町の「蛙田みいな」の3者が活動的であり、以下に紹介したい。

【きみのほしぞら】(図表5)

「きみのほしぞら」は紀美野町の非公認萌えキャラである。2020年3月にツイッターアカ

【図表5 きみのほしぞらツイッター】



ウント (@hotaruhoshizora) を開設しており3者の中では最も活動歴が長い。2024年9月15日時点でフォロワー数1741、フォロー数1897、ツイート数10695である。「きみのほしぞら」は5人組のご当地PRキャラの総称であり、メンバーは「星空ほたる」「星空すすき」「夕夏みかん」「日向みさと」「日向みどり」という。運営者は紀桜玲という名義で活動しており、紀美野町出身者であるが、現在は県外に在住している。兵庫県明石市の非公認萌えキャラの影響を受けて「きみのほしぞら」を運営するようになり、「少しでも紀美野町のことを

知ってもらいたい」という思いを持っている^v。キャラクターグッズは紀美野町にある宿泊施設「たまゆらの里」の売店コーナーで販売している。また、インターネットでも入手できるほか、ファン向けのイベントを開催した時等にも販売している。

【蛙田みいな】(図表6)

「蛙田みいな」は印南町の非公認萌えキャラである。2022年4月からツイッターアカウント(@kaerudamiina)を開設し2024年9月15日時点でフォロワー数1940、フォロワー数2207、ツイート数は12796である。キャラクターグッズは「かえるの港」産直市場なごみ内にワゴンを設置して販売され、時折ステッカーが無料配布されている。等身大パネルも3体作成され、印南町役場正面玄関等に設置されている。キャラクターには「かえる橋」はもちろん、町の花である千両、町の魚であるイサキ、特産品であるミニトマト、キヌサヤエンドウ、小玉スイカ、真妻わさびなどがデザインされている。紀伊民報は「町総務課によると、キャラクターの作者については地元在住者ということだけ明かしている。作者も『キャラクターのイメージを守りたい』として匿名を希望しているという。町はキャラ

クターを活かした効果的な情報発信や広報として期待している。」と報じている^{vi}。県外のサブカルチャーイベントなどにも積極的に参加し印南町をPRしている。

【一八桃葉】(図表7)

「一八桃葉」は上富田町の非公認萌えキャラである。2022年5月からツイッターアカウント(@18momoha)を開設し2024年9月15日時点でフォロワー数1657、フォロワー数2168、ツイート数は25901である。紀伊民報は「上富田町では、地域おこし協力隊の神田瑛二さん(23)が発案したキャラクター『一八桃葉(いちやももは)』が活動中。町特産のヤマモモとヒョウタンなどをモチーフにしている。等身大パネルのほか、缶バッジ、アクリルキーホルダー、Tシャツなどのグッズを、JR朝来駅構内の口熊野かみとんだ観光案内所に置いている。交流サイトのツイッターで毎日、町の情報を発信している。」と報じている^{vii}。「蛙田みいな」とは偶然、近い時期にデビューし、地理的に近いこともあって連携してイベントを開催したり、県外のイベントに参加したりしている。

これらの非公認萌えキャラは①ツイッターで情報伝達、②キャラクターグッズの作成及

【図表6 蛙田みいなツイッター】



【図表7 一八桃葉ツイッター】



び販売、③各種イベントへの出展、といった活動を行っている。キャラクターグッズは販売拠点で買うことができる。もちろん、拠点はそれぞれの地域にしかなく、地域への来訪を促す大きな動機となっている。グッズ販売の機会としては、各種イベントへの出展がある。毎年行われているようなサブカルチャー系のイベントに出展したり、複数の萌えキャラ運営者が合同で自分たちで小さなイベントを開催したりする。そこには、日頃ツイッターアカウントをフォローしているファンが訪れ、運営者とファンの交流の場にもなっている。訪れるファンの数はそう多くはないが、熱の入ったファンが訪れる。訪れるファンは顔なじみとなり、一定のコミュニティを形成している。「鉄道むすめ」や「温泉むすめ」を追っかけているファン層とも重なってくる人が多く、遠くからでも来訪者が来ることもある。和歌山県は「鉄道むすめ」が3人、「温泉むすめ」が3人おり、加えて複数の非公認萌えキャラがいることで、萌えキャラが集積しつつある。集積することで、来訪者は周遊し萌えキャラに出会う旅が成立するのである。

この3組の非公認萌えキャラたちは、ツイッターでの情報発信以外にどのような活動を行っているのだろうか。実際に筆者が参加したイベントの中から2つ紹介したい。

① 2023年10月21日（土）～11月4日（土） ハロウィンスタンプラリー

「一八桃葉」と「蛙田みいな」は大阪府阪南市商工会の公認キャラクター「波有手美海（ばうでみう）・緑川さくら」と、大阪府能勢町が運営するPRキャラクター「西能浄（お浄）・木勢るり（るりりん）」とともにスタンプラリーを実施した。この4者の拠点を巡りグッズを購入することでスタンプを押してもらう。3か所回ればステッカーが、4か所回れば缶バッジが貰えた。

② 2023年12月23日（土）、兵庫県神戸市垂水区での2者によるイベント

神戸市垂水区のU-SPACEというレンタルスペースで、和歌山県紀美野町の「きみのほしぞら」の運営者と、兵庫県伊丹市の「伊丹ラク子・伊丹昆陽」の運営者によるグッズの販売が行われた。

他にも、「印南かえるのフェスティバル」など地元での祭りに参加したり、「ひめじSubかる☆フェスティバル」など県外のイベントに出展したりしており、知名度の向上やファンの獲得、地元のPR活動を行っている。

4 自治体との関係

「非公認萌えキャラ」たちの活動内容や形態は様々であるが、共通して言えることは「萌えキャラへの愛・地域への愛」であろう。和歌山県外の地域の「萌えキャラ」運営者とも話をする機会があったが、その地域で育った人もいれば、そうでない人もいる。でも、その地域が好きで、ボランティア精神が旺盛で人とのつながりを大切にしている人たちであった。自治体などの公的機関は様々なPRに協力してもらうように、「非公認萌えキャラ」と良好な関係を構築すべきであると思われる。既にそのような体制になっている所もあるが、自治体によって差が見られる。

「非公認萌えキャラ」のイベントに参加するファンは固定メンバーが多く、今のところ動員力は大きいとは言えないが、通常の広報ルートでは来ない人を県外から誘客している。これは決して小さなことではない。非公認萌えキャラのファンを増やせば、その自治体のメリットにもつながる。何らかの形で非公認萌えキャラの活動支援を行うことが望ましい。

自治体として「公認」という手法もあるが、実は「萌えキャラ」はたびたび「性差別的」という批判を受けることがある。また、萌えキャラに好意的な住民ばかりとは限らず、自治体としては活用が難しい一面がある。非

公認だけど半ば公認ぐらいの、付かず離れずといったスタンスがよいと思われる。自治体は公認しないことで炎上リスクを回避でき、萌えキャラは「自由な活動」が行えるからだ。

5 今後への期待

「非公認萌えキャラ」には、今後も定期的に新規グッズを販売したり、スタンプラリーなど新企画を実施し、エンターテインメント性を充実させ、来訪を促し、地域への愛着をもってもらえるような取組を続けて欲しい。「地域への愛着をもってもらえる」というのは難しい課題であるが、とにかく足を運んでもらうことが大事だろう。

次に、多くの地域住民に愛され知名度を高めていくことが必要だと思われる。地域内外に知名度が上がり、物産品などの町内の商品にキャラクターの使用を無償で提供すれば、地域の経済とキャラクターの宣伝に相乗効果が得られるだろう。また、知名度が上がれば地域の食べ歩きスタンプラリーなどのイベントも視野に入ってくる。

非公認萌えキャラをはじめ温泉むすめ、鉄道むすめ、企業系萌えキャラなどの運営者はツイッターなどを通して互いにフォローし合い、緩い横のつながりができている。ファンも共通しており、温泉むすめと鉄道むすめのコラボ企画も存在している。業態の垣根を越えて取組が広がると全国的に注目されるかも知れない。欲を言えば非公認萌えキャラが、県内にもう少し点在していれば周遊する旅行プランも立てやすくなる。近隣に仲間が増えてくれた方が広がりができ新たなアイデア

も浮かんでくるのではないだろうか。

様々な企画が今後増えていくことに大いに期待したい。

6 終わりに

鉄道むすめ、温泉むすめが先鞭をつけた「萌えキャラを求めて旅行する」というスタイルに、個人や企業、自治体の萌えキャラも加わり、「萌えキャラツーリズム」とも言える楽しみ方が成立しつつある。

それは既に10年程度前から進んできている現象であった。和歌山県でも萌えキャラの登場自体はその頃からあった。そして今、また新たな動きが紀美野、印南、上富田から起こり始めている。

まんが・アニメ文化が国民の間に十分に浸透し、アマチュアを含め多くのクリエイターが日本にはいる。街中に萌えキャラが存在しても、多くの国民がそれを「かわいい」として受け入れている。こういう国は世界中を探しても恐らく日本だけだろう。

とは言え、「非公認萌えキャラ」は、今はまだ知る人ぞ知る存在である。ネット上ではファンアートなどの2次創作も少なからず見かける。サブカルチャーの最先端として盛り上がっていくのはこれからだろう。そして、せっかく生まれたキャラは、できるだけ長く活動して欲しいと思う。そのためにも、もう少し社会的に認知され、応援するファンが増えて欲しい。地域のPRに勤しみ、健気に努力している非公認萌えキャラは、新しく生まれた地域の文化なのである。

ⁱ 井手口彰典、「萌える地域振興：『萌えおこし』の可能性とその課題について」、地域総合研究37巻1号、2009、p.57-69

ⁱⁱ 「鉄道むすめとは?」、「鉄道むすめ」ホームページ

ⁱⁱⁱ 「温泉むすめプロジェクトとは（2022年6月12日更新）」、「温泉むすめ」ホームページ

「温泉むすめ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』

^{iv} 「キャラサミ」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』

^v 「町出身のクリエイターがプロデュース 紀美野町非公認萌えキャラ『星空ほたる・星空すずき』」、有田・海南のフリーペーパーアリカイナホームページ

^{vi} 「美少女キャラがお出迎え 印南町役場『蛙田みいな』情報発信」、紀伊民報、2023年8月17日

^{vii} 「紀南の観光アピールに一役 2次元キャラクター奮闘」、紀伊民報、2022年9月27日、AGARA紀伊民報ホームページ



人手不足時代の人材確保策

(一財)和歌山社会経済研究所
主任研究員

藤本 迪也

1. 和歌山県内事業者の人手不足状況とその影響

(1) 県内事業者の人手不足感

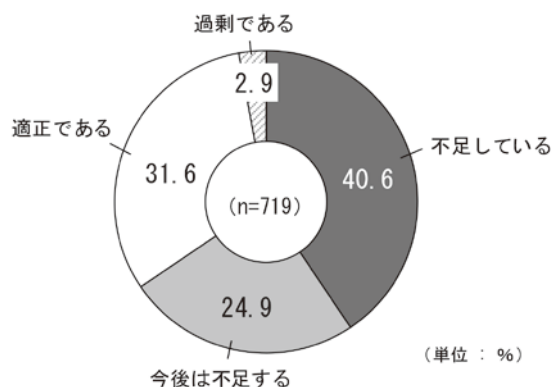
○ 人手不足を要因とする倒産件数が過去最多に

東京商工リサーチが10月に発表した2024年度上半期(4～9月)の全国企業倒産件数(負債額1千万円以上)のうち、人手不足を要因とする件数は148件に達し、比較可能な2013年以降としては上半期の過去最多となった。

○ 県内事業者の約6割が「人手不足」を課題と認識

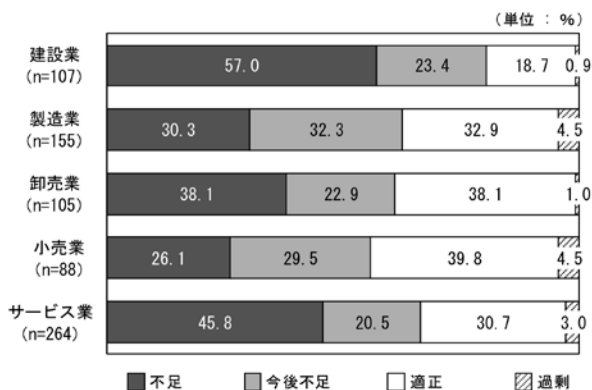
全国的に人手不足感が強まる中で、和歌山県内事業者を対象とした当研究所の「景気動向調査」(2023年12月実施)によると、40.6%の事業者が「人手不足」と回答し、24.9%が「今後は不足する」としている。今後の見通しを含めると、約6割の事業者が人手不足を課題として認識する状況にある。産業別では、建設業で「不足」とする回答が57.0%と最も多くなっており、サービス業の45.8%、卸売業の38.1%が続く。業種別では、旅館・ホテル業、運輸業、総合工事業などで「不足」とする回答が6割超を占めた。

図表1 和歌山県内事業者の人手不足状況
(全産業)



(資料) 和歌山社会経済研究所「景気動向調査」
(2023年12月実施)

図表2 和歌山県内事業者の人手不足状況
(産業別)



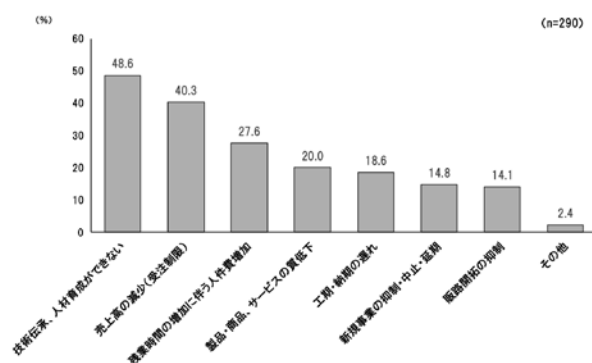
(資料) 和歌山社会経済研究所「景気動向調査」
(2023年12月実施)

(2) 人手不足がもたらす影響

○ 人手不足により多くの事業者が「人材育成ができない」「売上減少」となっている

人手が「不足」していると回答した県内事業者に対して、その影響を質問したところ (図表3)、「技術伝承、人材育成ができない」とする回答が48.6%で最も多く、続いて「売上高の減少 (受注制限)」(40.3%)、「残業時間の増加に伴う人件費増加」(27.6%)との回答が多く見られた。

図表3 人手不足がもたらす経営への影響



(資料) 和歌山社会経済研究所「景気動向調査」
(2023年12月実施)

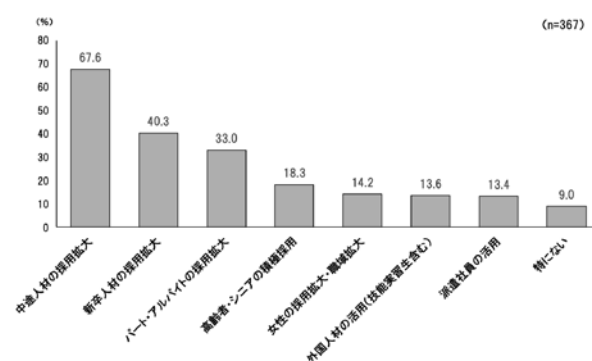
2. 人手不足解消に向けた県内事業者の取り組み

(1) 人材確保に向けた取り組み

○ 「中途人材の採用拡大」に注力する県内事業者が多い

人手不足に悩む県内事業者が多い中で、人材確保に向けた取り組みを質問したところ、「中途人材の採用拡大」(67.6%)が最も多く、「新卒人材の採用拡大」(40.3%)、「パート・アルバイトの採用拡大」(33.0%)が後に続く。

図表4 人材確保に向けた取り組み



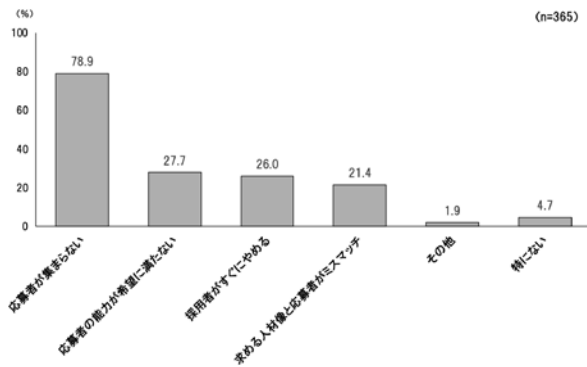
(資料) 和歌山社会経済研究所「景気動向調査」
(2023年12月実施)

(2) 人材確保に向けた課題

○ 多くの事業者が「応募者が集まらない」と回答

人材確保に注力する事業者に、その取り組みにおける課題を質問したところ、「応募者が集まらない」とする回答が78.9%で最も多くなっている。また、応募者が集まったとしても、「応募者の能力が希望に満たない」(27.7%)、「採用者がすぐにやめる」(26.0%)、「求める人材像と応募者がミスマッチ」(21.4%)といった課題も見られた。

図表5 人材確保における課題



(資料) 和歌山社会経済研究所「景気動向調査」
(2023年12月実施)

3. 人材確保に向けた全国の優良事例

(1) 「中小企業・小規模事業者の人材活用ガイドライン」(中小企業庁)

人手不足感が強まる中で、各事業者は人材確保に取り組んでいるが、人口減少・少子高齢化の中で、「応募者が集まらない」といった課題に直面している。国は学識経験者、企業

経営者、支援団体・支援機関職員からなる「中小企業・小規模事業者の人手不足対応研究会」を立ち上げ、対応策の検討に着手した。そして、中小・小規模事業者による人手不足への対応指針を示した「中小企業・小規模事業者の人手不足対応ガイドライン」を2016年に発表し、2度の改訂の後、現在は「中小企業・小規模事業者の人材活用ガイドライン」として公表している。

ガイドラインでは、経営問題の一つとして「人手不足・人材確保」に対処するのではなく、あらゆる経営問題の背景に「人手不足・人材確保」を含む「人材活用」(そのための「人材戦略」)の出来不出来があると指摘している。そして、「経営課題と連動した戦略的な人材活用が事業継続の鍵」であるとして、経営者自らが人材を柱に経営戦略を練る必要があると説き、人材活用の3ステップを提起した。

図表6 「中小企業・小規模事業者の人材活用ガイドライン」における人材活用の3ステップ



(資料) 中小企業庁「中小企業・小規模事業者の人材活用ガイドライン」

(2) 人材確保に関する取り組み例

以下では、中小企業庁「中小企業・小規模事業者の人材活用事例集」から、県内事業者にとって参考になる事例を紹介する。取り上

げる事例については、県内事業者において実施例の多い「中途採用」、「労働条件・処遇の見直し、テレワーク」をテーマとする。

図表7 人材確保に関する取り組み例

取り組み区分 () 内は業種区分	事例詳細
中途採用（建設業）	・ リフォーム事業に女性視点を取り入れるため、女性採用を強化 ・ <u>女性の働きやすさ向上のためテレワークを導入</u> ・ 女性従業員の取りまとめ役としてシニア人材を採用
中途採用（製造業）	・ 下請型から技術開発志向の製造業への転換を図るため、<u>大学との共同研究を実施（大学院卒の高度人材獲得につながる）</u> ・ 従業員の技術向上を図るため、<u>博士号取得奨励</u>
労働条件見直し （医療・福祉）	・ 介護業界共通の課題である「高い離職率」を低下させるため、<u>社内アンケートと面談により、労務環境に関する不満を聴取</u> ・ 同業他社と連携し、人材を紹介し合える関係を構築 (例) 市外に転出する従業員に転入先の介護施設を紹介
労働条件見直し （サービス業）	・ 育休中の従業員に対して、<u>子連れ出勤</u>を認め、早期復帰を促す ・ <u>テレワークや副業も認め</u>、働き方の選択肢を増やし、新たな人材採用につなげた

（資料）中小企業庁「中小企業・小規模事業者の人材活用事例集」

4. まとめ

本稿では、県内事業者の人手不足の状況や人材確保に向けた取り組み状況について整理し、「中小企業・小規模事業者の人材活用事例集」（中小企業庁）を参考に、人材確保に向けた取り組み例を紹介した。県内事業者の多くが人手不足に悩まされる中で、「売上減少」、「技術伝承や人材育成が進まない」といった悪影響にも見舞われている。このような課題を解決するためにも、前節で紹介した事例などを参考に人材確保策を推進するとともに、IT機器・ITシステムの導入・活用や業務内容・手順・やり方の見直しを通じた業務効率の向上を併せて進めていくことが一層重要になっている。

和歌山県内企業の業績状況

「2023年度」

「コロナ禍からの持ち直しの動きが一服するも、
価格転嫁の動きが一部で進む」

(一財)和歌山社会経済研究所
主任研究員

藤本 迪也

1. 2023年度の県内外情勢を振り返る

○ 物価上昇の継続で個人消費の持ち直しの動きが鈍化

2020年以降、世界経済に大きな悪影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、2023年5月に感染症法上の「5類」(季節性インフルエンザ相当)に移行となった。国内の主要観光地では日本人・訪日外国人客が増加し、大きな賑わいをみせた。また、半導体の供給不足の緩和から新車販売台数も持ち直しの動きを見せるなど、個人消費は改善傾向を示した。ただし、所得の伸びが物価の伸びを下回ったため、その改善の勢いは弱い。

企業活動・雇用環境に関しては、上場企業の24年度業績が3期連続で過去最高益となり、賃上げの動きが拡大している。厚生労働省が公表している「民間主要企業春季賃上げ要求・妥結状況」によると、賃上げ率(2023年)は3.60%となり、1994年以来、29年ぶりに3%台となった。ただし、総務省が発表している消費者物価指数(生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数、2023年度)は、前年比3.9%の上昇となっており、前述の賃上げ率を上回った。

○ 国内外の情勢に変化

23年10月には、イスラム組織ハマスとイスラエルの軍事衝突が発生し、中東情勢が緊迫化した。24年1月には能登半島地震が発生。長期にわたる断水・停電に加え、道路の寸断により経済活動に悪影響をもたらした。このような状況の中で、日本銀行は3月の金融政策決定会合において、17年ぶりとなる政策金利の引き上げを決定した。

このように、2023年度の日本経済は、コロナ禍からの持ち直しの動きが継続しつつも、物価上昇率の高止まりにより、個人消費の改善の動きが鈍化した。国内外の情勢変化の動きも激しくなっており、実質GDP成長率は前年比0.8%増と22年度の1.6%増を下回った。

以下では、このような2023年度における県

内企業の業績状況について整理を行う。

2. 2023年度における県内企業の売上高

○「売上増」の企業が4年ぶりに減少

和歌山県内企業の業績状況（2023年度）について、図表1では「売上高」を整理している。前年度に比べて売上高が「増加」した企業は36.0%となり、「減少」の37.9%を下回った。「増加」の割合は、20年度より上昇傾向にあったが、4年ぶりに下降した。コロナ禍からの持ち直しの動きに一服感が見られる。

図表1 県内企業の売上高の増減（対前年度）

	増加	横ばい	減少
2019年度 (n=793)	26.1	15.9	58.0
20年度 (n=692)	26.7	16.8	56.5
21年度 (n=776)	36.3	19.8	43.8
22年度 (n=692)	41.8	20.7	37.5
23年度 (n=703)	36.0	26.2	37.9

（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」

○ 製造業と卸売業で「売上増」の企業が減少

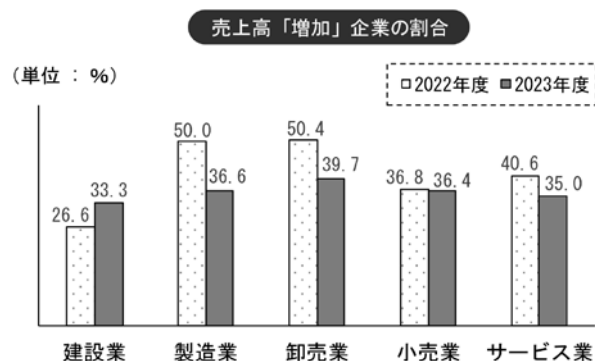
産業別に見た場合（図表2）、「増加」企業の割合は、製造業と卸売業で10ポイント超の下降となっている。その一方で、小売業、サービス業の下降幅は0.4ポイント、5.6ポイントと小さく、建設業に関しては6.7ポイントの上昇となった。製造業と卸売業については、22年度は「受注価格・販売価格の上昇」、「受注の増加」などを背景に約半数の企業が売上高「増加」と回答していた。23年度は、その反動による売上減少の可能性も考えられる。

○ 小売業、サービス業は、価格転嫁の進捗による「売上増」の企業がやや多い

サービス業については、飲食業、旅館・ホテル業で「増加」とする回答割合が高い。その要因としては、「販売価格の上昇」とする企

業が多くなっている。小売業に関しては、「新規取引先・顧客の増加」、「販売価格の上昇」を売上高増加の要因として挙げる企業が多くなっている。

図表2 産業別に見た売上高「増加*」企業の割合
（*）前年度の売上高との比較



（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」

3. 2023年度における県内企業の営業利益

○ 県内企業の4割強が「利益減」

和歌山県内企業の業績状況（2023年度）として、続いては図表3において「営業利益」を整理する。前年度に比べて営業利益が「増加」した企業は29.9%となり、3年ぶりに3割を下回った。「減少」と回答した企業は40.5%となっており、前年から2.6ポイント減ったものの、依然として4割を超えている。

図表3 県内企業の営業利益の増減（対前年度）

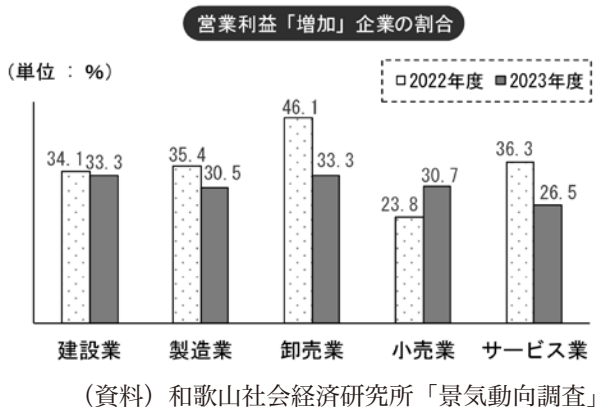
	増加	横ばい	減少
2019年度 (n=774)	24.3	17.3	58.4
20年度 (n=768)	28.3	20.9	50.8
21年度 (n=768)	32.3	22.8	44.9
22年度 (n=682)	35.4	21.6	43.1
23年度 (n=696)	29.9	29.6	40.5

（資料）和歌山社会経済研究所「景気動向調査」

○ 営業利益「増加」の企業割合はいずれの産業においても約3割

産業別に見た場合（図表4）、営業利益が「増加」した企業の割合は、いずれの産業においても3割前後となっている。営業利益の「増加」要因としては、「既存事業の売上増」、「価格転嫁の進捗」との回答が多い。

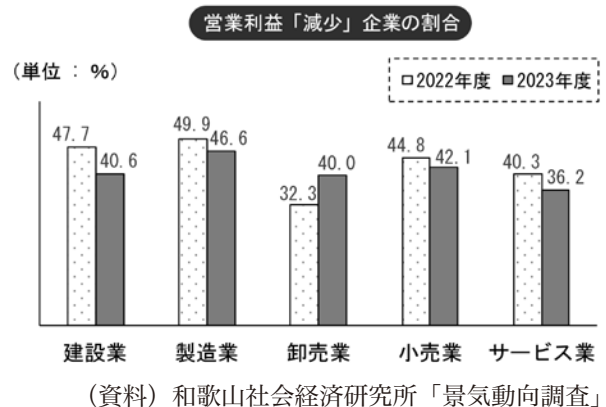
図表4 産業別に見た営業利益「増加*」企業の割合
（*）前年度の営業利益との比較



○ 営業利益「減少」の企業は製造業で46.6%を占める

続いて、営業利益「減少」の企業割合を産業別に見ると（図表5）、製造業で46.6%と最も高く、その他の産業についてはいずれも約4割となっている。2023年度は、原材料等の仕入価格の上昇ペースが鈍化したこともあり、「仕入れコストの増加」で営業利益が「減少」したとする企業は22年度に比べて減っている。その一方で、「販売量・受注量の減少」により営業利益が「減少」したとする企業が増えた。

図表5 産業別に見た営業利益「減少*」企業の割合
（*）前年度の営業利益との比較



4. おわりに

県内経済は、2022年度においてはコロナ禍からの回復の動きを見せていたが、23年度に入り、製造業や卸売業を中心に一服感が見られるようになってきている。その結果として、23年度の業績について、売上高が「増加」したとする企業が4年ぶりに減ることになった。その一方で、飲食業、旅館・ホテル業、小売業を中心に、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁する動きが一部に進んだ。その結果、23年度の営業利益について「減少」したとする企業は4年連続で減っている。

2024年に入り、対ドル円相場は円安に強く振れ、7月には1ドル160円台まで下がっている。円安に伴う輸入物価の上昇が、再び原材料価格の上昇を招く懸念は強い。賃上げの動きも加速しており、労働団体の連合が集計した24年の春闘賃上げ率は5.10%と33年ぶりに5%を超える高い水準となった。企業にとってはコストアップにつながる事象が多く現れている。県内企業にあっては、コスト上昇分の販売価格への転嫁が望まれるが、十分に転嫁できている企業は依然として少ない。価格転嫁の進捗のためには、各業界全体での価格転嫁に対する理解が進むこと、そして、さらなる賃上げによる消費者の購買力の向上が欠かせない。

グラフで見る 和歌山県経済指標

和歌山県経済は、個人消費・企業活動ともに弱さがみられる

日本経済の現状(内閣府「月例経済報告 2024年9月」)

景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している

- ・総合判断は8月に上方修正(1年3か月ぶりの判断引き上げ)。
- ・個人消費の判断が8月に上方修正(上方修正は1年3か月ぶり)。
- ・世界経済の判断が6月に上方修正されるも、7月に下方修正。

日本経済の見通し(内閣府「月例経済報告 2024年9月」)

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域を巡る情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

- ・「令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意」との文言が削除(7月)

和歌山県に関する経済指標の概況(9月公表の指標を中心に)

- 百貨店・スーパー販売額(全店、8月)は、2か月ぶりに前年を上回った(防災備蓄需要高まる)
- 新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、8月)は、2か月ぶりに前年を下回った
- 新設住宅着工戸数は、1月～8月累計で前年同期比1.2%減
- 鉱工業生産指数(7月)は、前月比4.0ポイントの上昇
- 公共工事請負金額は、4月～8月累計で前年同期比5.1%増
- 消費者物価(8月)は、コアコアCPIが2か月連続で上昇
- 有効求人倍率(8月)は、2021年後半以降、長らく横ばいで推移している

和歌山県内の主な経済指標の状況(前年同月との比較、一部前月との比較)

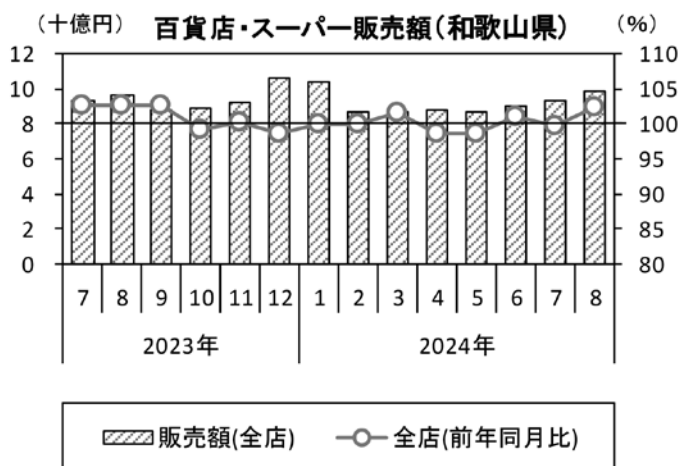
		2023年						2024年							
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
個人消費	百貨店・スーパー販売額(全店)	○	○	○	●	○	●	●	—	○	●	●	○	●	○
	新車販売台数(登録車、軽自動車[乗用]含む)	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	○	○	●
	新設住宅着工戸数	○	●	●	○	●	●	●	●	○	○	○	○	●	●
	家計消費支出(除く住居等、二人以上の世帯)	○	●	○	●	●	●	○	●	○	●	●	○	○	
企業活動	鉱工業生産指数 ※前月比	○	●	●	○	●	●	○	○	●	○	○	●	○	
	公共工事請負金額	○	●	○	○	○	○	○	○	●	●	○	●	○	○
	TDB景気DI ※前月比	○	●	○	●	○	●	●	—	○	○	●	●	●	○
物価	消費者物価(コアコアCPI、和歌山市)※前月比	○	○	●	○	○	●	○	●	○	○	○	●	○	○
雇用	有効求人倍率(季節調整値)	●	●	●	●	●	●	●	—	●	●	●	—	○	○

(注) ○：上昇(増加) —：横ばい ●：下降(減少)、空白はデータ未発表

個人消費

百貨店・スーパー販売額(全店、8月)

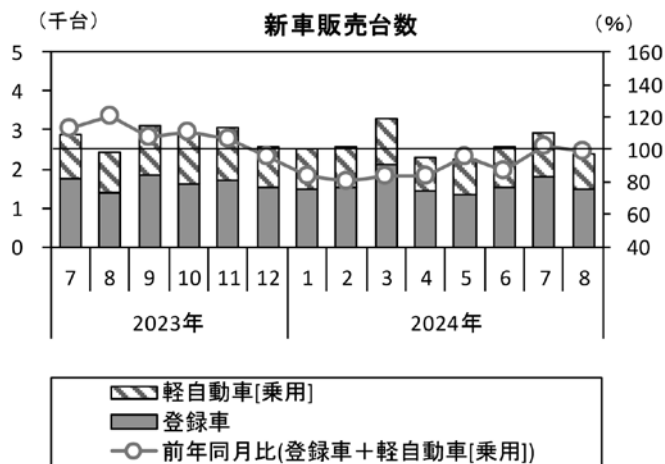
は、前年同月比2.3%増となり、2か月ぶりに前年を上回った。県内唯一の百貨店である近鉄百貨店和歌山店の販売額(8月)が前年同月比1.3%減であることから、スーパー販売額が大きく増加した模様。8月上旬の南海トラフ地震臨時情報に伴う防災意識の高まりから、水・食品等の備蓄需要が高まった。さらに、米不足を受けて、総菜やレンジ米飯、餅などで特需があったものと考えられる。このような動きはドラッグストアやホームセンターの販売額にも見られ、いずれも前年を大きく上回る販売額となった。



(資料)経済産業省「商業動態統計調査」

新車販売台数(軽自動車[乗用]含む、

8月)は、前年同月比0.8%減となり、2か月ぶりに前年を下回った。大手自動車メーカーによる認証試験不正問題による出荷・生産停止の影響は緩和しているが、台風等の天候不良が販売店への客足に影響した可能性が考えられる。車種別では、登録車が前年同月比6.5%増で、7月に続き前年を上回る一方、軽乗用車は同10.5%減と2か月ぶりに前年を下回った。

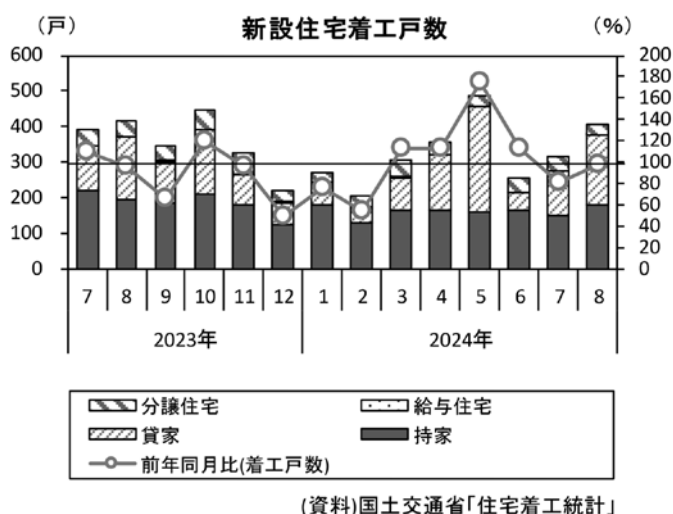


(資料)一般社団法人全国軽自動車協会連合会ウェブサイトならびに和歌山県自動車販売協会資料

新設住宅着工戸数(8月)

は、前年同月比2.7%減となり、2か月連続で前年を下回った。1月～8月累計での着工戸数は前年同期比1.2%減となっている。「貸家」が同18.2%増となる一方で、「持家」、「分譲住宅」は減少した。資材価格の高騰や物価高の影響で住宅価格が上昇していることから、全国的に「持家」の着工戸数は低水準にある。

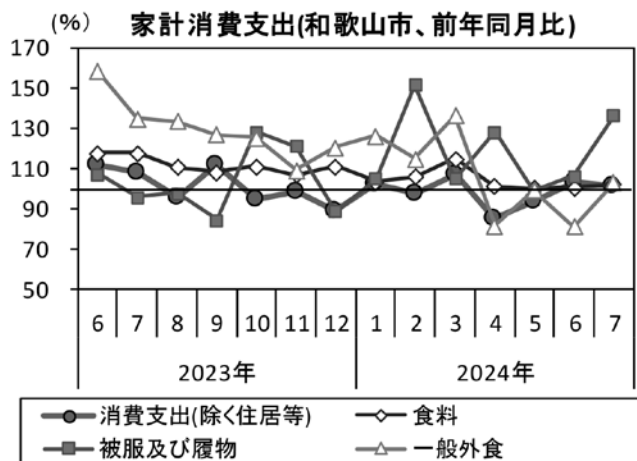
1月～8月累計の着工戸数を地域別に見ると、和歌山市、海南市、岩出市などで前年同期を上回る一方、橋本市、紀の川市、新宮市では大きく減少している。



(資料)国土交通省「住宅着工統計」

家計消費支出(除く住居等、8月)

は、前年同月比1.2%増と2か月連続で前年を上回った。一般外食支出に減少傾向が見られる一方で、菓子類、調理食品への支出は増えており、食料支出全体では1年4か月連続で前年を上回った。全国的には家計所得に増加の兆しが見られる。6月の定額減税ならび賃上げ効果もあり、実質賃金(6月)は前年同月比1.1%増となった(増加は2年3か月ぶり)。県内企業においても、賃上げの動きは広がりを見せており、家計の所得状況が改善すれば、消費支出の増加が期待できる。



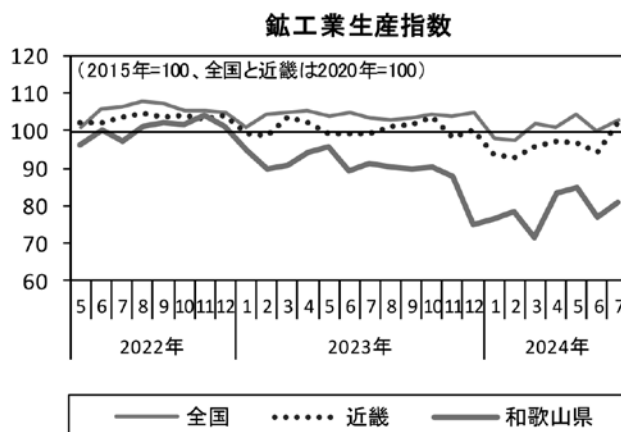
(資料)総務省「家計調査」(二人以上の世帯)

企業活動

鉱工業生産指数(7月)

は、前月比4.0ポイントの上昇となった。2023年10月に県内製油所の精製機能が停止し、化学工業および石油・石炭製品工業の生産指数が大幅に下降。3月には13年以降の過去最低値を更新していた。その後は、合成洗剤などの化学工業、汎用機械工業で生産指数が上昇し、県全体の生産指数は改善傾向を示している。

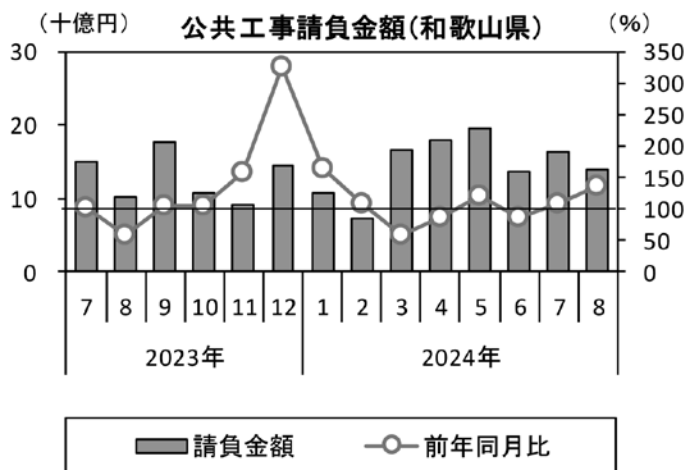
国内全体では、生産指数は一進一退の状況にある。世界的な半導体需要の回復から電子部品・デバイスにおいて生産指数が上昇している。ただし、先行きについては、上昇テンポの鈍化が見込まれ、自動車生産の持ち直しも緩やかな動きにとどまっている。



(資料)経済産業省「鉱工業指数」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」和歌山県調査統計課ウェブサイト

公共工事請負金額(8月)

は、前年同月比37.2%増(増加は2か月連続)。この結果、4月～8月累計での請負金額は前年同期比5.1%増となっている。国ならびに県発注工事が増加した。地域別の請負金額では、橋本地区、岩出地区、和歌山地区、湯浅地区、串本地区など多くの地域で前年同期に比べて増加している。

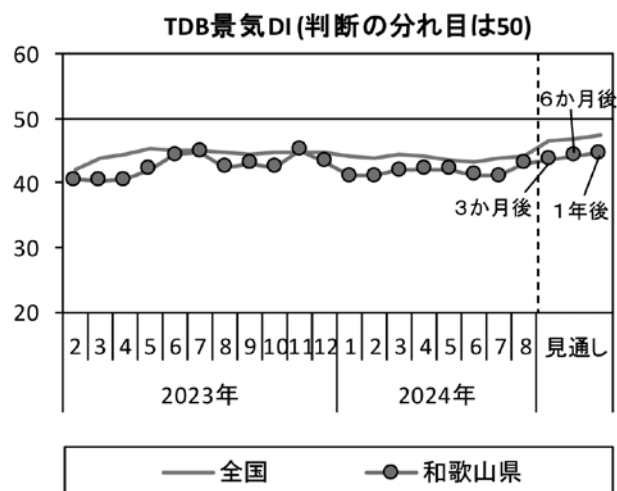


(資料)西日本建設業保証㈱「公共工事動向」

TDB景気DI(8月)

は、(株)帝国データバンクが月次で実施している景気動向調査から算出された景況感を表す値である。この値が50を超えると、現在の景気を「良い」とする事業者数が「悪い」とする事業者数を上回る。

8月の景気DIは前月から1.9ポイント上昇した。上昇は4か月ぶり。4か月連続で下降していた製造業の景気DIが上昇に転じるとともに、卸売業の景気DIが2か月連続で上昇した。その一方で、台風による天候不良、南海トラフ地震臨時情報に伴う行楽需要の減退などで、サービス業の景気DIは約2年ぶりの低水準まで下降している。



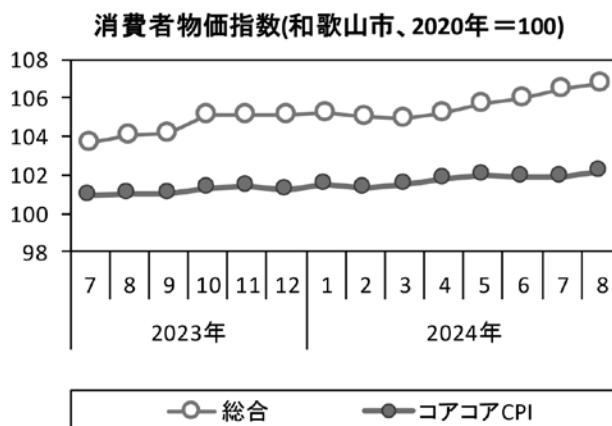
(資料) (株)帝国データバンク

物価

消費者物価指数(和歌山市、8月)

は、コアコアCPIが前月比0.3ポイント上昇(上昇は2か月連続)、総合についても前月比0.3ポイントの上昇となった(上昇は5か月連続)。政府の電気・ガス代の負担軽減策の補助額が減額されたこともあり、エネルギー価格が5月～7月にかけて上昇した。ただし、9月～11月には「酷暑乗り切り緊急支援」により再び価格低下が見込まれる。

食料品価格については、コメ価格が大きく上昇したこともあり、再び上昇幅が拡大している。さらに、教養娯楽用耐久財、教養娯楽サービス、交通などでも価格が上昇し、このことがコアコアCPIの上昇に寄与した。

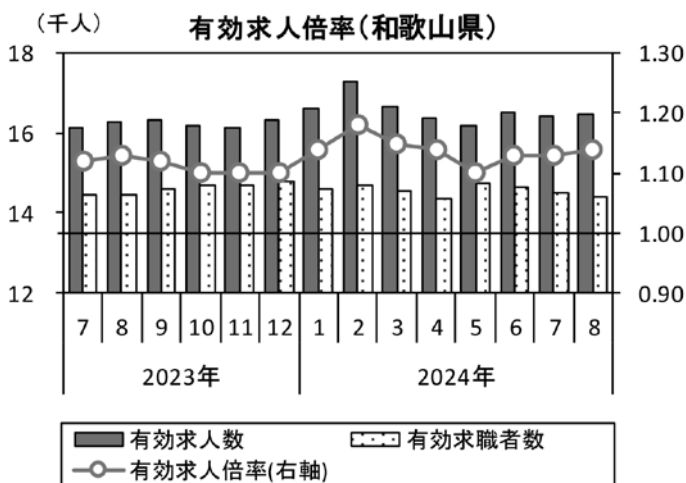


(注) コアコアCPIは食料(酒類を除く)及びエネルギーを除いた物価指数。
(資料) 総務省「消費者物価指数」

雇用

有効求人倍率(8月)

は、前月から0.01ポイント上昇し、1.14倍となった(上昇は2か月ぶり)。有効求職者数が3か月連続で減少する一方で、有効求人数は2か月ぶりに増加した。2021年後半以降、有効求人倍率は1.15倍近傍での推移が続いている。和歌山労働局は「緩やかに持ち直しの動きがみられるが、求人の一部に足踏み感がある」との判断を維持しており、「物価上昇等が雇用に与える影響に注意する必要がある」と指摘している。



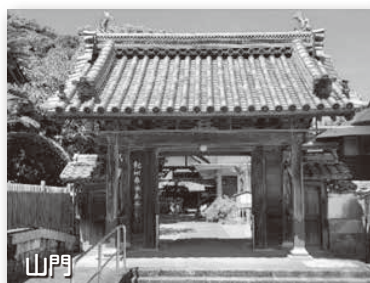
(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

錦江山 無量寺 ～長沢芦雪の竜虎図が秀逸～（串本町）



無量寺には江戸時代の水墨絵師長沢芦雪の迫力有る襖絵がある。無量寺は宝永地震（1707）による大津波による寺流失以降、度重なる台風等の自然災害に遭遇してきた。愚海和尚の代になり再建を目指す和尚はたまたま京都の絵師円山応挙と親交があり、再建後の絵の寄贈を約束していた。再建なった1786年、いざ絵を届ける段になって応挙は多忙のため一番弟子の長沢芦雪に絵を託す。芦雪は絵を携えて串本に向かった。師匠のいる寒い京都とは違って温暖で雄大な環境の南紀の地で、まるで解き放たれたかのように才能を開花させた芦雪は次々と絵を残した。其の数270点と言われており、その代表的な作品が無量寺の襖絵（障屏画）である。左右6枚ずつの襖に描かれた竜虎図は圧倒的な迫力で迫ってくる。

その他の収蔵品は境内の応挙芦雪館と収蔵庫で見学することが出来る。（取材 萬羽）



鈴木屋敷 ～日本の鈴木姓の元祖～（海南市藤白）

全国に200万人以上いるとされる鈴木姓。全国の名姓で佐藤姓に次いで二番目に多いと言われている。その鈴木姓の元祖がここ海南市藤白にある鈴木屋敷である。もともと鈴木氏は“穂積氏”を名乗り熊野で神職についていたが、平安時代の終わり頃熊野から熊野参詣道の要所海南藤白の地に移り住み、上皇などの熊野参詣の際に接待などを行っていたという。

穂積は熊野地方では“すすき”と呼ばれており、それが転じてすすき→すすき→鈴木となったと伝えられている。その後鈴木氏は藤白王子社の管理を行うなど、藤白神社とは深い繋がりを持っていた。

因みに藤白神社は鈴木氏の敷地に建てられたという。ここ藤白由来の鈴木氏には武将が多く、ここを始点に全国に分散し増加していった。また明治になってから鈴木姓を名乗る人も多かったことから、全国第二位の拡がりとなったという。

（取材 萬羽）



改装なった鈴木屋敷



研究所だより

現在、研究取り組み中の一部をご紹介します。

研究テーマ：被災自治体における民間支援団体等との協働に関する研究

令和7年1月17日は、「ボランティア元年」と言われる阪神淡路大震災の発生から30年目になります。

この震災で甚大な被害を受けた兵庫県には、震災直後から多数のボランティアが駆け付け、震災後1カ月間は1日平均2万人、震災後1年間で137万7千人が活動し、活動内容も避難所の運営支援や炊き出し、仮設住宅等の友愛訪問、自治会づくりなど多岐に渡り、行政の災害対応を補完する役割を果たすとともに、これ以降、民間による被災地支援は、自治体の災害対応に欠かせない存在となっています。

現在、民間による被災地支援は、避難所や被災者への医療、介護等の高い専門性が必要な場合など、行政では手が届きにくい被災者個人に寄り添った支援も行われ、その存在はより大きく重要となり、被災自治体では被災者支援の協働パートナーとして欠くことが出来ない地位を占めています。一方で、行政と民間支援側との間での認識のずれ等から、支援能力を十分活用できない事例も見受けられます。

以上を踏まえ、本研究では、民間支援団体へのヒアリングを基に、被災自治体が民間と協働し、効果的に民間支援を受援するための備えや対応策について考察します。

研究テーマ：住民主導の地域イベントの開催効果と持続的な運営

地域イベントの開催は、地域内外の人々との交流拡大や地域文化の振興のほか、経済活動の活性化など多くの効果が期待されます。なお、地域イベント開催により多様な効果を最大限に引き出しながら効果的かつ継続的に実施するためには、イベントの目的と種類に応じた運営が重要であり、また、過疎化が進む地域においては、イベントの担い手自体が不足していることから、その地域をよく知り、地域に愛着をもつ人材の活躍が肝になると考えています。

以上を踏まえ、本研究では、地域住民が主導役となり20年近く継続して開催されている地域イベントのモデルケースとして、大阪府大阪市の「韮公園バラ祭」に筆者自身がボランティアスタッフとして参加し、体験・調査した結果を基に、住民主導の地域イベントを成功へ導くための秘訣について考察します。



メールマガジンのご案内

当研究所では“WISEメールマガジン”を発行し、HPの更新状況や、講演会・セミナー等のご案内などをお知らせしております。

登録ご希望の際は、下記アドレスの「WISEメールマガジン」から、必要事項をご記入の上、お申し込み下さいますようお願いいたします。

URL : <http://www.wsk.or.jp>

賛助会員募集中

□ 会費：1口 2万円(年)

□ 特典：刊行資料の配付、調査・研究成果の提供、講演会・セミナー等への参加、情報提供等

編集後記

熊野古道・大雲取越えの歌人たち——

輿の中でずぶ濡れを嘆いた藤原定家と土屋文明、斎藤茂吉

今年は、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界文化遺産登録20周年。和歌山・奈良・三重の3県にまたがる広大な紀伊山地に形成された3つの山岳霊場——修験道の拠点である「吉野・大峯」、熊野信仰の聖地「熊野三山」、真言密教の根本道場「高野山」は、それぞれ異なる信仰の霊場だが、参詣道「大峯奥駈道・熊野参詣道・高野町石道」で結ばれ、日本古来の自然崇拜に根差した神道、中国から伝来し、わが国で独自の展開をみせた仏教等が融合した独自の神仏習合思想が形成された。

これら「紀伊山地の霊場と参詣道」の文化資産群は、2004年、国際的な判断基準に照らして、「顕著で普遍的な価値」を認められ、「他に類例のない日本の宗教文化が千年以上にわたって発展してきたことを示す貴重な遺産」と評価された。国内外から多くの観光客、巡礼者が訪れている。

巻頭言を御執筆下さった旅行や登山を愛する齊藤誠先生から、「12月に、那智から小口、熊野本宮大社と、中辺路を歩こうと思います」との連絡をいただいた。

熊野那智大社から、その北の那智山や標高966mの大雲取山を越えて旧熊野川町・小口に至る「大雲取越え」、小口から標高610mの如法山を越えて、請川に至る「小雲取越え」を経て熊野本宮大社に到着する。

「雲取越え」は、熊野三山の参詣道、熊野古道中辺路の派生ルートの一つで、通常は、本宮大社から熊野川を船で下って、新宮の速玉大社に詣でた後、陸路で那智大社に詣でるが、修行者や庶民らが、険しい山間部を縫って、那智山と本宮を結ぶ道を開き、後に熊野詣の巡礼者や旅人にも定着した。熊野古道最大の難所かつパワースポットである「大雲取越え」は、その名のように、雲がつかめるほどの高くて峻険な、雲の上の道である。標高883mの舟見峠からは、熊野灘の広大な海、航行する船…大パノラマが広がる。

かつて、この「大雲取」を歩いたことがある。全然、山好きでもないのであるが、県内各地に建てられた詩歌の石碑を紹介し、解説した県の出版物『紀州おもしろブック——いい碑 旅だち』の編纂のため、掲載する写真を撮るのが目的である。必要な写真は、標高848mの越前峠に建つ文化勲章も受章したアララギ派の歌人、土屋文明の碑など数点。

カメラマン氏含め3名で、小口の駐車場に車を止め、登り始めた（全員、初めてである）。ほどなく、苔生す大岩に梵字を刻んだ有名な「円座石」^{わろうだいし}（ここに、熊野三山の神々が座って談笑したという）があるが、この辺はまだ麓。山中で遇った地元の人に、「那智から来たのか？」と聞かれ、「小口から」と答えると、「ええっ？」と驚かれた。（普通の古道歩き初心者は、傾斜の緩やかな那智側から登り、急な下り坂を経て小口に至る）

途中、「胴切坂」などという恐ろしい名の上り坂が続く。60°位傾斜があるのではないかとさえ感じるほどの急勾配を、使命感に燃えたカメラマン氏は、驚くほどのパワフルな足取りで登るが、わたしなどへとへとで、足が上に持ち上がらない。横からはずみをつけて振り上げるようにして登ったのを覚えている。

そして、何とか、越前峠にひっそりと佇む「土屋文明の歌碑」に辿り着いた。刻まれた歌は、

「輿の中 海の如しと嘆きたり 石を踏む丁のことは伝へず」

この歌は、建仁元年（1201）、後鳥羽院の熊野御幸に随行した歌人、藤原定家の日記『熊野道之間愚記』（後鳥

羽院熊野御幸記)を踏まえたものである。

定家は、「…終日、陰阻を越す。心中は夢の如し。いまだかくの如きの事に遇わず。雲トリ紫金峯は手を立つるが如し…」と記した。大雨の中、那智を出発した院一行の列。定家は、笠を被り、蓑を着て、輿に乗っていたにもかかわらず、輿の中でずぶ濡れになり、本宮に着いた時には、前後不覚になった、今までこんな苦しい事に遇ったことなく、悪夢のようだと大雲取越えの厳しさを嘆いた。

大正14年(1925)、土屋文明は、8歳年長の歌人、斎藤茂吉を大雲取越えに案内した(熊野に魅せられたのか、文明は計4回、熊野を訪れている)。

その折、茂吉は、険しい道を「紀伊のくに 大雲取の峯ごえに 一足ごとにわが汗は落つ」と詠み、

文明は「大雲取越えて苦しみを残す二人 定家四十 茂吉四十四」、

「寒き雨に 咳きつつ越えし定家知らず 汗たらす茂吉は我が目に見たり」と、定家と茂吉を歌に詠んだ。

碑に刻まれた彼の歌では、(大雨の中の大雲取越えで、定家はずぶ濡れになったと嘆いたが、)定家が乗った輿を担いだ丁(人夫)のことは…?と、やや皮肉も感じられる。

写真撮影も済み、帰りの小口への下り道、上りは苦勞したわたしは、下りは、まるで修験者のように山を駆け降りたというと、大げさだが、大変足取り軽く降りることができた。ところが、そうでない人がいた。あんなに行きは快調であったカメラマン氏は膝の具合悪く、しゃがんだ姿勢で降りたのである。そんなことを知らないわたしともう一人は、登り口の自動販売機のジュースを何本もおかわりしながら、彼が降りてくるのを待ったのであった。

(谷 奈々)

発行 2024年12月11日

編集発行者 一般財団法人 和歌山社会経済研究所
〒640-8033
和歌山市本町2丁目1 フォルテワジマ6階
TEL 073-432-1444(代) FAX 073-424-5350
<http://www.wsk.or.jp/>

印刷 株式会社 さかぐち昇和印刷



一般財団法人 和歌山社会経済研究所

〒640-8033 和歌山市本町2丁目1 フォルテワジマ6F

TEL : 073-432-1444 FAX : 073-424-5350

2024年12月11日発行 和歌山社会経済研究所報 第108号

www.wsk.or.jp



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。